

日本医家芸術クラブ 邦楽祭

十一月二十七日(日)

正午より

於 日本橋 三越劇場 入場無料

皆様ご来場お待ちしております



医家芸術 夏季号 目次

60 巻 通巻 628 号 (2016 年度)

◇医家随想

「間質性肺炎→蜂巣状肺」一息が
苦しくて、もう食べられないわ！

浜名 新 …………… 3

水難あれこれ

出来 尚史 …………… 8

チェーホフを読む (11)

知人の家で

藤倉 一郎 …………… 13

古文書と暴瀉病について

服部 瑛 …………… 14

魑魅魍魎

豊泉 清 …………… 19

記備談語— 4 —

佐藤 玄祥 …………… 21

サイパン戦跡めぐり

美濃部 幸恵 …………… 37

私の趣味と楽しい同好会

白矢 勝一 …………… 46

医芸俳壇 …………… 51

医芸柳壇 …………… 51

医芸歌壇 …………… 52

◇ほ ん …………… 53

橋爪康子写真展

白矢 勝一 …………… 54

高岩震写真展

白矢 勝一 …………… 55

クラブ通信 …………… 57

透視像 …………… 58

編集後記 …………… 58

表紙の言葉 …………… 50

原稿募集のお知らせ …………… 57



医家随想



「間質性肺炎↓蜂巢状肺」
—息が苦しくて、もう食べられないわ！

浜名 新

高齢化が進み、身体の老化・疲労で病気がちとなり、死亡予備群の数は、必然的に増えることが予想されます。最近の報道では年間120万人以上が亡くなっているそうです。

多くの人は、意識清明で（多少ボケが始まっても）、日常生活動作（ADL）が自立していれば、住みなれた自宅の居室で、家族とともに、あるいはひとりで、気ままに生活

し、最期の「トキ」を迎えたい願望があると思われます。相当以前に連れ合いが亡くなっていれば、自宅での独居生活にこだわる人が多いと思われる。

ADLが年毎に低下すれば、第3者の手助けが必要となります。そこで身内の人は、みかねて、介護のためにやむを得ず離職し、在宅で世話をしようとするでしょう。あるいはある期間、介護ヘルパーに来てもらい、様子観察して、最善の方策を検討する時間に当てるかもしれません。一般的に、本人の持病が悪くなり、あるいは想定外の病気に陥れば、かかりつけ医に電話相談・受診し、病

状によっては急性期医療を標榜している総合病院を紹介され、救急搬送されるかもしれません。救急搬送しない選択肢もあると思います。

一旦、入院し、治療のために寝込むと、高齢のため、萎縮している筋肉の量と力がさらに落ち込み、経口摂食機能などが落ち込みます。嚥下機能障害の併発症として怖いのは、誤嚥性肺炎で、命取りになるからです。担当医はまず肺炎の治療を行い、しかる後に、水分・栄養の補給の方法を考え、栄養の消化・吸収の面から経管栄養を勧めるでしょう。すなわち、経鼻胃管の留置、あるいは、胃ろうを造り胃ろう菅を留置する方法です。

病状によっては、経管栄養ではなく、高カロリー輸液を行う、中心静脈にカテーテルの留置を推奨するかもしれません。手足の静脈から低カロリー輸液を行う処置、静脈確保が

難しければ皮下注射による補液の注入は最期の手段となります。

病状や処置の面で、継続治療・対応が必要な場合、転院先として、回復期の病院、療養型病院が候補になります。症状が改善して在宅に戻っても、ADLが低下してくれば、身内などの手助けが必要となるかもしれません。経過観察、あるいは内服治療の継続が必要ならば、かかりつけ医に受診しなければなりません。

往診してもらいたくても往診してもらえないければ、訪問診療に特化した医師や看護師を探さなければならず、容易ではないと思います。

在宅医療の充実が叫ばれてはいますが、病人側の問題、訪問診療などの医療状況を考えると、地域によっては在宅医療に問題点が多あるように思われます。そこで、病人を手っ取り早く療養・慢性期型の病院に丸投げして、終末期（看取り）まで

診てもらおう家族が多くなっているのかもしれない。

わが国の死亡者の死亡場所についての統計では、病院死亡が8割ぐらい、在宅その他での死亡が2割ぐらいだそうです。

新聞には有名人の死亡広告が載ります。後期高齢者になると、あかの他人の死でも、死因について気になります。最近の傾向として、「間質性肺炎」などと聞きなれない肺炎が登場します。

大学の同窓会新聞では氏名と卒業年度のみで、死亡原因は併記されません。同級生、先輩、後輩、近隣の住民の訃報を知ると、「お迎えの死神様」を出来るだけ遠ざけようと、日常生活に気を遣うようになりますが、所詮、3日坊主で、なるようになるしかない、と開き直っております。

数年前、担当した多田様（79歳

女性）は、「呼吸不全・間質性肺炎・蜂巣状肺症候群」の病名で、一般病院の内科から転院され、数か月後お亡くなりになりました。鎮魂の意味で綴らせてもらいます。多少のフィクション、思い込みを、ご容赦願います。

多田様は療養型病院に転院される1か月前の3月、風邪をこじらせ、発熱と呼吸困難で自宅近くの一般病院の内科に緊急入院され、抗生剤と点滴、酸素療法で肺炎を克服されました。

担当医は、本人と息子と面談し、肺のCT所見（蜂巣状肺の広がり）、低酸素血症、呼吸不全が進行し、肺炎の再燃のリスクも高いことから、在宅ではなくて、療養型病院への転院がベターではないか、とアドバイスしたそうです。本人と息子は、その場で、転院は止むを得ない、と判

断したようです。

多田様は息子と2人きりになり、久しぶりにくつろぐと、自分の心境を息子に伝えました。

「忙しいのにお見舞いに来てくれてありがとう。母さんね、72歳のとき、在宅酸素療法を取り入れてから、あまりいいことないわ。風邪をこじらせると、直ぐ肺炎になり、入院・治療でしょう。そのつど、病状が厳しくなっていることを自覚します。もう自宅療養は無理ね。そんなに生きられないわ。自分でわかるのよ。最期は病院で面倒してもらいます。そのときは、よろしくお願いします」

「かあさん、そんな気弱（きよわ）でどうするんだ。元氣を出せよ」

息子は強い口調で発破をかけました。

「そうね、元氣を出して、プラス思考でいきましよう。でも急変があるからな。時間をつくって、皆さ

んで顔を見せてください。話は違うけど、あなたも、仕事と家庭、子供の教育は大事にしてね」

息子は母親の言葉をかみしめたようにうでした。結果的に、この言葉は、遺言みたいなニュアンスになったようです。

日を改めて入院相談が行われました。通常、入院相談には、受け入れ側の病院の医事課担当の職員、入院後担当する医師、病人の身内が同席し、同時に、病人が現在入院（所）中の担当医師が作成した医療情報提供書（紹介状）が用意されます。その書面は前院の医療連携室を経由しFAXされた書面です。医師にもよりますが、同席した医師は、患者家族とともに紹介状を吟味し、ざつくばらんに、意見交換をします。

入院に関する諸経費、病室・リハビリ医療・医療設備（薬剤科・放射線

科・栄養科。厨房 などについて、受け入れ側の職員が説明し、院内を案内し、現状を見てもらいます。

多田様の場合、確か、病名として、「慢性呼吸不全・間質性肺炎・蜂巣状肺症候群」が記載され、酸素吸入が毎日行われ、食べられておりました。CT所見としての「蜂巣状肺」なる用語に注目し、末期の肺病変と推測しました。

多田様と病室で初めて対面しました。

彼女は意識明瞭で、四肢・体幹ともに麻痺はありません。療養生活の影響で筋力低下を伴い、自力歩行は困難な状況で、車椅子での移動が困難でした。理解力は普通、意思伝達が可能、認知症状はなく、会話は不自由ありませんでした。

還暦の頃、風邪をこじらせると、咳と痰（たん）が治らず、副鼻腔炎に移行するのか、膿が後鼻漏として

上咽頭に流れ落ち、咳、咽頭・候頭炎が誘発され、耳鼻科医を受診・治療しなければなりませんでした。その頃、近くの病院の内科を紹介・受診し、胸のXP・胸のCT所見から気管支拡張症の疑いの診断を受けたそうです。

72歳の頃、軽作業でも息苦しくなり、歩くこと、立ち居振る舞いの動作が遅くなり、総合病院の呼吸器科を受診しました。肺が相当悪くなっているのではないかと危惧しておりました。胸の単純XP、胸のCT撮影がなされました。先生から、10年前に受けた病名とは全然違う病名、「間質性肺炎と蜂巣状肺の所見」と、血液ガス分析から「低酸素血症」を指摘されました。

常に酸素を吸う必要あり、と指摘され、「在宅酸素療法(HOME OXYGEN THERAPY)」を指示されました。低酸素血症の持続に

よる全身的な臓器障害を予防し、生存期間の延長を図ることを目指す、ためだそうです。間質性肺炎と蜂巣状肺の存在で、肺胞の換気(ガス交換)が不十分になるためでした。肺胞の支持組織である間質に繊維化が生じ弾力を失い、肺胞のガス交換が機能低下するからだそうです。

日常生活において、肺のさまざまな病気(例えば、タバコのに多いCOPD(慢性閉塞肺障害)から低酸素血症になり、酸素療法を受けている人はたくさんおります。路上とか電車内で、酸素を吸っている人に遭遇します。自分も酸素を吸わないと生きられない身となり、なさけない限りと、当初、落ち込みました。

その頃から、風邪をこじらせると、決まって発熱と呼吸困難になり、一般病院の呼吸器科に入院し、肺炎の治療をする羽目になりました。

入院時の心臓ホルモン、BNP(脳

ナトリウム利尿ペプチド)値は170ぐらいで(正常値は18.4以下)で心不全の存在を示していました。胸の単純写ではスリガラス陰影と囊胞(のう胞)が、CTでは多数の大小入り混じった囊胞が集族して存在し、あたかも蜂の巣の様な網目状の蜂巣状肺の所見でした。よくもまあ、こんなに悪くなくても生きられるものだと感心しました。

多田様は呼吸器系が弱かったので、乾布摩擦、薄着励行、水泳教室へ通って、身体の維持を図って、それなりに努力してきたそうです。

入院後、内服の抗生剤・気管支拡張剤・ステロイド剤・利尿剤を併用して対応しました。入院2か月過ぎの6月、7月、8月にそれぞれ細菌性の肺炎を併発し、抗生剤の点滴治療をしております。もうこの頃には、手足の静脈の確保が厳しい状況で、ナース泣かせでした。血管がもろい

ため、薬液が皮下組織に漏れて腫れ、皮下出血して赤紫色に変色し、何回も刺す羽目になり、多田様にも苦痛を与えてしまいました。

入院時、食事の内容を本人に尋ね、全粥から始めました。副食は1口大です。普通量を配膳しますと、食べきれず残すので、量を減らし、補助食品、ヨーグルト、ゼリー、リンゴジュースなどを付けて食欲をそそるように工夫してみました。

しかし、病状が進行したためか、食欲は失せ、次第に食べられなくなりました。こうなると、手足の静脈から点滴による低カロリー輸液で、水分・栄養を補給し、身体の維持を図らざるを得なくなりました。静脈確保が次第に困難となりました。

「管を鼻から胃に留置し、流動食を注入する方法」をお訊きました。

多田様は、日ごろ考えていたのか、よどみなく応えました。

「とんでもありません。しなくて結構です。鼻からの管で生かされるのは嫌です。何もしないわけにはいかないでしょうから、点滴・輸液でお願いします。針を刺すとき痛いのは我慢します。生き延びるのは苦痛を伴い、多くの人の手を借りることばかりでした。この病院に来てから3回目の肺炎をクリアし、ここまですきたのですから、延命などしなくていいです。息子が先生に、なにをお願いしたのか知りませんが、終末期ですから、私のわがままを許して欲しいですね・・・」

彼女は、長い年月をへて荒廃した「蜂巢状肺」を運命とあきらめ、人生を達観したのか、終末期の「トキ」を迎えても、心の乱れを晒（さら）すことはありませんで、驚くほど冷静でした。

「肺の病気や肺炎には苦勞されませんでしたでしょう？」

「タバコは吸わなかったのに、いつの間に、得体の知れない肺の病気に侵されて、辛かったです。正直、息を吸ったり、はいたりたり、呼吸器の病気は辛いわよ。発熱と呼吸困難がそろって襲ってきます。自宅療養では限界がありますから、そのつど入院させられ、点滴・輸液がおこなわれました。何故再発するのでしょうか。きつと、巣の中で生き延びた悪い菌が、みはらかつて暴れだすのかしら。肺炎のたびに、肺の組織が壊されるのかしら。『蜂の巣の肺』ですって、いやな表現ですね」

「どなたか知りませんが、偉い先生がつけた病名ですから、間質性肺炎が繰り返された結果です」

「仕方ないわね」

「食べる量は、1口―3口でしょう。何とか静脈からの低栄養輸液でがんばっております。静脈確保が難しくなれば、静脈注射に順じた皮下

注射で、細々、水分を補給してまいります。病院ですから人目があります。最低限の対応をさせていただきます。そうすれば、誤嚥することもなく、脱水で痰も少なくなり、肺炎にも進展せず、安らかに平穩に旅立たれるはずです。経験からそのように判断します。でも忘れてならないのは、水分・栄養が体にいきわたりませんので、生きられる期間が短くなりまう。頭にいられておいてください。お願いします」

「静脈注射に順じた皮下注射ですか、痛くなければかまわないです」
「承知しました。最期は輸液の真似事をさせてもらいます」

「それを聞いて、安心しました」
多田様は自分の逝く末を、主治医とさつくばらんに話して確認し、安心したのか、穏やかな表情を浮かべておりました。

医療側は、終末期が近づいたと判

断し、いつ急変するか分かりませんので、心電図などを含む生命監視装置で、端子を胸の皮膚に装着し、モニターを開始しました。もう見守るしかありませんでした。

ある夜、突然、脈が走り出して、1分間に140前後に増加し、上室性頻脈が出現しました。当直医は、抗不整脈剤の筋肉注射の指示はせず、様子観察されました。

その頃から、意識レベルが低下し、傾眠(眠り込む)状態に陥りました。声をかけても、体を揺すっても、目を開けず、反応もありません。

それを契機に、血圧は低下し、尿量は少なくなりました。呼吸状態はあえぎ呼吸に悪化しました。

脈が50に低下しだすと、その値から無造作にでたらめの数値の引き算をするかのように、心拍数は不規則に下りだし、心電図の波形の乱れを伴い、あつというまにゼロとなつて

しまいました。

息子さんに至急来院を要請しましたが、ご臨終に間に合いませんでした。合掌
(28、5)

水難あれこれ

出来 尚史

その一―慌てるべからず

夕方近く突堤から海に入った。湾は半円形を描いて燈台のある岬まで続いている。この時刻、出入りする船もなく、波も穏やかである。距離は七百mあまり。楽勝だと思った。ゆつくりと泳ぎだした。クロールで泳ぎ、平泳ぎで泳ぎ、時には仰向けになつて、空飛ぶカモメを目で追いかけた。海にも浜にも人影は見えない。空と海と私だけの、静かな時間が流れていた。

中程まで来た時、急に水が冷たく

なつた。外海からの流れの影響だらうか。まずいなど思っているうちに、右足の痙攣が始まった。猛烈に痛い。痛くて泳ぐどころの騒ぎではない。やむを得ず息を止めて沈み、故障した足を治すことに専念した。爪先を握って甲側に引く。これでふくらはぎの筋肉が伸びて、痛みが幾分軽くなつた。

時々水の上に顔を出して息を吸い、また水中に戻る。浮いたり、沈んだり——水面下二m以内に漂いながら筋肉の愛護に努めた。痛みも癒え、どうにか動けるようになるまで十分ほどかかったと思う。残り三百mは右足に極力負担をかけないようにして泳ぎきつた。

人の体は水に浮くようにできている。特に海の水には浮きやすい。慌てないことが肝要だ。じたばたすると泳げる者でも命を危うくする。この時は波風が強くなってよかった。

荒れた海なら息継ぎもままならなかっただろう。天運も我にあった。

誰もいない海、一人つきりで泳いではいけない。それがここでの教訓であるが、その後も私はしばらくの間、単独行動を好んだ。海でも山でも。

その二―逆巻く波に呑み込まれ

西伊豆の小さな浜である。妻と子供たちは波乗りフロートや浮き輪を出して遊んでいる。風は穏やかで浜辺に寄せる波もやさしい顔をしていた。私はスノーケルとフィンを持って少し離れた場所に移動した。複雑に入り組んだ岩場で、水深3〜5m。幾種類かの魚の住処になっていた。

潜つてすぐに、いつもと違うぞと感じた。魚影が少ない。あちこち探そうちに、岩に囲まれて壺状になった箇所に入った。そこで数匹の亜熱帯魚とベラを見た。その程度である。

はて、他の魚はどこへ行ったのか。怪しみながらしばらくその壺の中に留まっていた。

と、思いがけず水に強く押され、岩に体をぶつけた。態勢を立て直したところへ、また水の一撃が——。強い流れが次々と押し寄せ、壺の中はたちまち水と泡の渾然たる世界に変わつた。洗濯機に投げ込まれたらこんな感じがするだろうか。このままでは傷だらけになってしまう。

水の引くタイミングを見計らつてようよう岩の壺を脱出。水面に出て、岩の上に這い上がった。風は先程よりかなり強くなっている。見ると波のうねりも高い。心配になつて浜の方に急いだ。

妻と子供は既に砂浜に上がつていた。四人とも放心したように座っている。聞くと、大波に襲われたのだと言う。以下、妻の話の要約：……「海に向かつて浮かんでいると突然

波が山のように盛り上がって迫ってきた。逃げようとしたが間に合わない。次の瞬間にはすっぱりと呑み込まれていた。水の中でぐるぐると回った。やつとの思いで底に足を着けて立ち上がった。見ると水は腰の高さまでしかなかった。岸近くに運ばれていたのだ。子供たち全員の無事を確認した時、安堵のあまり力が抜けた」

妻は泳ぎが達者で、海にも慣れている。それが「怖かった」というからには余程大きな波だったのだろう。膨らんだ大波は岸近くで砕け、覆いかぶさるように頭上に降り落ちる。波の回転エネルギーは強力だ。巻き込まれると上下左右が全くわからなくなる。

遠浅でもなく、外海に面したオーブンな浜だった。風の影響を受けやすく、うねりの高さは予測できない。そんな所で遊ばせた私が軽率であつた。

た。上げ潮だったのが救いである。ゴーグルと帽子を二組つつ波にさらわれたが、それで済んだのは幸いというほかない。

その後、妻には言われ続けている。「肝心な時にいないんだから。本当に役に立たない」

その三ー顔が怖いと損をする？

自験例ではない。父の友人から直に聞いた話だ。仮にMさんとしておう。

れつきとした海水浴場での出来事。Mさんは息子を連れて泳いでいた。子供のほうは浮き輪に入ってパシヤパシヤやつている。その日は海水浴日和だった。潮風に打たれながらの遊泳は楽しい。

気が付くといつの間にか浜辺が遠くなっていた。あまり離れないうちに、とMさんは戻り始めた。ところがいつまでもたつても陸地が近づかな

い。いや、むしろ離れていくように思えた。焦った。力を入れて泳ぐ。

浮き輪つきの子供と一緒なので、進みが遅いのはわかるが、それにしてもおかしい。ここで初めてMさんは、沖に向かう流れに捕まったことを知った。流れは異様に早い。

「助けてくれえ」

一番近くのカップルに向かってMさんは叫んだ。カップルはこちらを見る。しかしすぐに二人だけの世界に戻った。二度三度とMさんは助けを求めた。かれらは振り向きもしない。完全に無視しているかのようだった。

落胆したが、このままではだめだ。何とかして子供と二人生きて戻らねばならない。気を取り直したMさんは浮き輪を引きながら、今度はゆつくりと、浜と平行に泳ぎ始めた。少し沖に流されるような気もする。しかし先程のようではない。驚いたこ

とに一、二分横に泳いだだけで強い流れの束縛から逃れることができた。

もう自由である。岸に向かって楽に進めるようになったのだ。子供ともども無事上陸したMさんは、砂浜にどっと倒れこんだという。

「そのカップル、助けを呼ぶ声が聞こえなかったんでしょか」

私の不躚な質問に答えて

「いや、聞こえたんだよ。だがね、俺の顔を見て怖くなつたんじゃないかな。関わりを持ちたくないと思つたのかもしれない。あるいは冗談だと思われたのか」

確かにMさんの顔はいかついし、表情によつては恐ろしく見えることもあるだろう。だが、どんな印象を受けたにせよ、助けを求めている人に手を差し伸べないとは。しかも子供連れではないか。

Mさんは何事もなかったかの如く愉快そうに笑った。笑い話ですん

やかつた、とこの時私は、心の底から思つたのであつた。

「離岸流」という言葉があることを知つたのはずいぶん後になつてからだ。河口や突堤付近、さらには、ごく普通の海水浴場でも起こりうる現象だという。波や地形の状況が影響するらしい。一時的に出現してすぐ消えるものもあるそうだが、油断は禁物である。

自然に關して我々が学ぶべきことはまだまだ多いのだ。

その四―溺れる者は救助者を掴む

報道を見る限りでは、海より川の事故の方が多いように思われる。子供たちだけで遊びに出かけるからであろ

うか。泳げない者が水に入るのは論外だが、泳げるからといって安心してはいけない。川の水は冷たい。深みにはまると体の自由が利かなくなるこ

とがある。そして何よりも怖いのが急速な流れだ。ちよつと見たただけでは流れの速さはわかりづらい。足を掬われたが最後、あれよあれよという間に運ばれてしまふ。水の力は想像するよりはるかに強い。

流されたので早く岸に戻りたい。そう考えて最短距離を泳ぎ切ろうとするだろうが、これは間違ひである。こういった場合は斜めに泳ぐのが正解だ。流れに無理に逆らおうとせず、下流の岸を指してゆつくりと、少しづつ離脱する。岩だらけの急流では思うように泳げないだろうが、そもそもそんな所で水に入るべきではない。

さて、救助法。

ロープや浮き輪があればそれを活用するのが原則だ。咄嗟のことで間に合わないとなれば、近づいて直接救い上げるしかあるまい。しかしそこに問題がある。溺れかかつた者は、

必ずといっていいほど救助者にしがみついてくるのだ。そして双方の命を危うくする。

いかにこれを避けるか。私の父は川や海で何人かの命を救ったことがある。その経験から出た対処法を披露すると――

「抱きつかれてどうしても離れなかつたら、一旦水の中に潜れ。相手は苦しくなつてきつと手を放す。やむを得ぬ場合は殴つてもいい」

父は溺れる大人を救助しようとしてしがみ付かれたことがあるらしい。あまりに強い力だったので、平手で相手の頬を打ったそう。ひるんだ隙に後ろに回り込む。あとはセオリ一通りに引つ張つて泳ぎ、無事救助に成功したという。

溺れた人を運ぶには横泳ぎ、背泳ぎが向いている。友人と何度か練習してみたが、足をぶつけないように泳ぐのが難しい。背泳ぎの時は裏返

しの蛙足になる。救助者の手は相手の顎に引っかけるのがよいと思う。髪を引く方法も試してみた。しかしこれは不評。引つ張られた友人から「痛い」と苦情が出た。

ここでユニークな救助法を紹介しよう。泳いで助けるのではなく、歩いて助ける。溺れた者を肩車して水面上に出し、救助者は川底を歩いて岸に戻るのだ。「水中版川越え人足」というところか。この救助現場に実際に居合わせた私の父は「あんなのは初めて見た。いたく感心した」と語っていた。

もちろんこの方法には難点がある。救助者は長く息を止めていなければならぬし、あまり深い場所では使えない。幅の狭い、比較的浅い川向き、ということだろうか。

その五―眠れる美女ならよかったのに……父とは比較にならないが、私も水

難救助をしたことがある。医学生だった頃の話だ。

一月二日、高校の同窓会でしこたま飲んでの帰り道である。もちろん夜。自宅近くの橋にさしかかると、何人か川岸で騒いでいる。街燈に照らされた川面を見ると、誰かが俯せになつて浮いていた。動いている気配はない。それを集まつた人が長い棒でつついているのだ。いや手繰り寄せようとしているのか。

一刻を争う！川岸に降りるやいなやなや私は下駄を脱いで飛び込んだ。幸いに背の立つ深さだった。岸に運び上げるのも難しくはない。仰向けにすると五十歳がらみの男性である。酒の臭いがした。脈は微弱で無呼吸。学んだとおりに心臓マッサージと人工呼吸を始めた。マウスツーマウスだ。眠れる森の美女だったらよかったのに、と思つたがぜいたくを言っている場合ではない。

処置が功を奏して息を吹き返した時はうれしかった。ほどなく救急車が到着。皆が見守る中、彼は病院に搬送された。私はといえば羽織も着物もびしょ濡れだ。真冬の冷気が容赦なく肌を刺す。温かい風呂を求め、急いで家路を辿った。

明くる日、気になって消防署と病院に電話してみた。「容態はどうですか？」

驚いたことに彼はもう退院していた。というか、病院を脱走したらしい。これまでも酔っぱらって事故に遭い、たびたび救急車の世話になっっている人だという。病院で目覚め、慌てて逃げ出したのだろう。過去のことはわからないが、今回はあんなまでは危なかったと思う。元気になって何よりだ。こういう事情であれ、人助けは人助け。私は清々しい気分だった。

常習犯なら、またどこかで出くわ

すかもしれない。母に話すと、

「今度人を助ける時はね、」ん？いつも意表を突くコメントで家族を喜ばせてくれる母。いったい何が続くのか、期待しながら待っていた。

「せめて羽織だけは脱いで、飛び込みなさい」

——なるほど、そう来ましたか……。脱帽。

チエーホフを読む（11）

知人の家で

藤倉 一郎

モスクワで弁護士をしているボドコーリンは学生のころクウジミンキのローゼフ家で寄食していたことがある。クウジミンキはモスクワから汽車で2時間ほどのところにあり、そのころローゼフ家にはタチャーナ、ナデージタとタチャーナの友人のワ

ルワラがいた。わたしと同じ年頃だったが、私よりみんな大人びていた。タチャーナはセルゲイと結婚して、領地の経営が不振になり、8月7日に競売に出されることになったのである。

それでタチャーナとワルワラはボドコーリンを呼んで、何か救済策はないかと彼に相談しようと手紙を出したのだった。ボドコーリンは懐かしいし、恩義もあるのでクウジミンキへ出かけることにした。クウジミンキではセルゲイとナデージタが迎えてくれた。

ボドコーリンは当時ミーシャという愛称で呼ばれていたが「ミーシャ」とかこの苦境を救済してほしいの。なんとかうまい逃げ道があるでしょう」とタチャーナが懇願するのだった。ナデージタは24歳になっていた。ボドコーリンと二人で庭を歩いているときナデージタは意味あり

げに彼に相談があるといった。彼にプロポーズするような雰囲気だった。

食後離れで寝ようとするセルゲイがコニャックをもって部屋にやってきて話し込んだ。「200ルーブリ金が工面できないか」というので持ち金がこれしかないからと100ルーブリ渡した。

ボドコリーンは夜更け屋敷の塔に登って月に照らされた荒野を眺めていた。ナデージダがやってきて、私がいるのを感じたのか犬と何か喋っていたが、私がじっと音も立てずにいると、やがて帰った。

明日、セルゲイやタチャナ、ナデージタになんと言えはいいのだからと考えていた。

翌朝、6時セルゲイが起きてきたので、「10時までにはモスクワに行かなければならない用事を忘れていた。婦人たちには早いから挨拶しないで帰る」といつてすぐ帰ることにした。

帰途あれほど多くの楽しい日々を送った、昔過ごした屋敷をなんども振り返った。

自宅に帰ってすぐ、仕事を始めた。クウジミンキのことはもう心になかった。

崩壊する貴族の姿が痛ましい。弁護士にもどうすることもできないのだ。没落する貴族社会の崩壊をどうすることもできない。学生時代にあげていた女性たちが悲嘆にくれている様子をみることはボドコリーンにしてみれば、つらいことだが何か手をさしのべる事もできない。

革命前夜のロシヤの社会状況がみえるが、社会変革の波に翻弄される人々の生活が切ない。かつての女友達も年をとりただだ生活におびえている。そして年頃の女性は未来に夢を失って絶望している。没落する貴族社会の不幸が痛ましい。

古文書と暴瀉病について

服部 瑛

はじめに

例えば富士山や上高地など、すばらしい自然景観は私たちの心を慰めてくれる。だがそれ以上に私の心を慰め、躍動させてくれるのは、人間の営みが絡み合った歴史的事実である。中でも古文書は私にとって興味をそそる実物の足跡となる。古文書を記した人たちの当時の息づかいや思いを感じると殊の外嬉しくなってくるのである。今迄も「古文書講座」などをめくっていたのだが、一向に習得する気配が無かった。

そんな折、尊敬するM先生（群馬県文化財保護審議会会長など）に、「古文書を教えてくれる人はいませんか」とお願いしたことがあった。しばらくして「なかなかいい教師は

いません。しかし医学に関する古文書を読んでみたらいかがですか」と、いくつかの史料を持参され私に与えて下さった。その中に医師上原元伯の蔵書目録があつた。その中で、最初に眼に飛び込んだのが『暴瀉病二付』だった。早速群馬県立文書館に向いて、その古文書を手に入れたのである。

暴瀉病

暴瀉病（ぼうしやびょう）とはコレラのことである。江戸安政年間にも大流行し、それは上州まで波及した。偶然手にした史料は、安政六年（一八五九）八月に高崎藩領の元総社村（現前橋市元総社町）で蔓延したコレラを、地元の医師上原元伯（註一、二）が体験、記録したものであった。参考までにその大意を簡単に記してみよう（「」内は原文）。

冒頭から驚くべき事実が示されて

いた。「安政己未ノ中秋十二日ノ頃ヨリ暴瀉病余カ郷ニ流行シテ弊ルル者算サルニ暇アラス」と始まって、これは前年も少し流行をみたが、今年は「百倍」したというのである。北の方から起こって、終に「城市村落」まで蔓延した。その病勢は「颶風ノ廻転シテ砂ヲ卷、樹ヲ倒シテ進ムガ如ク」で一二時間あるいは「半時」で多くの人が斃れた。その症状は、腹痛を伴わず、突然水、あるいは「米磨汁」のようなものを下痢、嘔吐した。声が出なくなる者は、「凶兆」で、ついで「心下物」があつて「塞ぐ」症状を伴つて、嘔吐を二、三回繰り返した後、顔色衰えて「呻吟錯乱」して手足が冷たく、冷汗が出て、のどが乾いて、脈が弱くなってくる。ある者は「困睡状」になり。あるいは「轉筋」（こむらがえり）して、死に到るといふのである。

これらの病状を目の当たりにして

医師たる上原元伯は決して手をこまねいているわけにはいかなかった。「其病原性ヲ推シ其病因ヲ探リ病者ヲ塗炭ノ中ニ救ハント欲シテ」、まず漢方の書物の中にこの病気を渉猟するのである。つまり、漢方の大家李時珍（明人）の『本草綱目』、『沙虫集解』さらに危亦林（元人）の『得効方』、龍其延賢（明人）の『萬病回春』、葉尹賢（明人）の『極集要』、郭志遂（清人）の『痧腸秘方集驗』などに根拠を求めたが、漢人の著書では「此病ノ淵源ヲ探リ得ル事能ハザル」という結論に達するに到つた。そして、ドイツの医師モリスの『医学韻府』の中でこの病気が記載されていることを探し出したのである。

その内容は、「彼国一千八百十七年本邦文化丁丑ノ年ニ當リテ初テ東印度ノ南海ノ濱ニ起リ次第ニ諸州ニ蔓延シテ然ニ本邦ニ及ビ」、「今ニ至ルマテ死亡スルモノ凡九百萬人ニ及

フ」とある。つまり、一八一七年インドから発生して、アジアを経由してヨーロッパに至りそのため九百万人も死亡したという。この流行は、カルカッタから起こってアジアを経由しヨーロッパ間でも拡大したかつての大流行にまさに符号している。

当然のことながら、「不潔狭隘ノ居室」、「悪食摂生」、「大涼甚暑」あるいは「氣候俄ニ變スル」などは悪化因子だと言及しているのだが、当時の窮理家は彗星の接近がその原因ではないかという学説を紹介している。つまり元伯は、彗星によって地球が影響を受けて、その結果地中あるいは河川から人が感知できないごく僅かな蒸気が出て、人体に入って腸胃を犯して暴吐暴瀉を引き起こすという壮大な仮説を展開しているのである。まさにそんな安政五年、彗星の接近（註三）が日本でも観測され報告されていた。これは当時天も揺る

がすような大異変だったはずで、こういった珍説がまことしやかに流布する条件が整っていたにちがいない。そして元伯は、「寒冷ノ藥ヲ用テ温熱ノ劑ヲ戒ム」といった方法で効果があつたとしているのだが、このあたりはその評価が難しいので詳細は割愛させていたたく。ドイツでは、静脈を刺して悪血を瀉血させる刺絡法が最も重要だと記載されていたらしい。元伯は、ドイツ人は肉食だから多血なはずで、しかし日本人は肉食を食べないから多血ではなく刺絡法は効果がないう説をとっている。結局、「奢汰」に長じ、「墮慢」になつたことでさまざまな天災や病気が起きたと、その当時の医師に課せられていた儒教的な考えから病気の結論を下すのである。

触れと安政記聞

上原元伯の書からは、安政六年上州

においてコレラの流行があつたというのだが、果たしてそれが真実かどうか確認しなければならぬ。試みに手元にあつた『高橋景作日記』（註四）を繙いてみると、そこにはまさに暴瀉病についての記載があるではないか！それは「安政五年九月三日暴瀉病江戸大流行ニ付き御老中様^ハ芳香散ト云薬方其外予防・手当御書付此辺迄御觸アリ（以下略）」というものであった。

当時の情報伝達手段として「触れ」は重要だった。早速群馬県立文書館で調べてみると、なるほど五種類の同じ内容の触れがみつかったのである。その中の一つを現代語訳してみよう。

「この時期流行の暴瀉病はその療治法は種々あるけれどもその中で素人が心得るべき方法を示しておきたい。この病を予防するには決して体を冷やすことなく、腹部には木綿を巻、大酒や大食いを慎むこと、さらに消

化し難い食物を一切とつてはならない。若しこの病に罹つたら早々に寢床に入つて飲食を謹んで暖め、芳香散という薬を用いるとよい。これだけ

で治ることも少なくない。吐瀉が甚だしく体が冷えて来たならば、焼酎一ないし二合に龍腦または樟腦一ないし二匁入れ、暖めて木綿の切つた布に浸して腹あるいは手足に易しく刷り込み、芥子泥を心窩部ならびに手足に一時間くらいずつ時々貼るとよい。芳香散は上物の桂枝、益智、乾姜の細末を等分に加えて調合したもの

但し、手足の先や腹部が冷えるところを温めた温鉄や温石を布に包んで湯を使うようにすることもよい。この度流行の病が甚だしく、諸人難儀をしているのでその病状に関わらず早速試してほしい。害の無い薬法と思われるので是非試してほしい。八月

公儀より仰せられることなので寺社ならびに在町にも連絡すること
九月

また御領分の村々にも衆知徹底してほしい。

九月二日 金井五郎作

現在の医学から考えると全く検討はずれの予防・治療法である。芳香散（註五）も芥子も効果は期待出来ないし、温鉄、温石も無効な代物と思われる。それは疫病の実態を知った現在の視点から見ると滑稽にさえ思える。しかし歴史を紐解くとは、かつての現実の中から、当時認めら

れていた治療法を含めて、それしかない状況をあえて確かめることのためから浮かび上がってくる。下痢を抑える芳香散を飲ませ、芥子や温鉄などで体を暖めるといふ、止むに止まれぬ合理性はあった。さらにお上の療治だから間違いはないとする威厳の結果はどうであれ、人々に絶大な安心感を与えたように思われてならない。それはまさに政治だったのである。

別に『安政記聞』（註六）と題する聞き書きが残っている。そこにも暴瀉病の記事を四編見つけた。その中で、病名は、暴瀉病の他、冷徹疫という見慣れない病名、あるいは三日コロリ、すでにコレラという名称も現れている。感染地域と死亡者数に関して、安政五年八月上旬より江戸にてコレラで死んだ者は数千人から数万人、あるいは二十餘萬人という数字もみられる。その他上総、下総、

安房にも及び、さらに大阪、京都、あるいは武州羽生、上州高崎、伊勢崎という地名もみえる。江戸浅草御門通りでは安政五年八月四日、百十六の葬儀が通り、八日、百二十、さらに水道橋では八月七朝四時から夕方四時まで三十二の葬儀が通つたと具体的にその多さが記載されている。一家の内五、七人死んだ家庭も多いともある。安政五年七月十三日、両三日で長崎の出島で三十人罹患、同地のアメリカの船中で多数の死者をみたとする報告もあった。

これらのごく限られた情報から推測しても、おそらく西日本から関東にかけて広汎にコレラが蔓延したと思われる。それは長崎の出島から伝播（安政五年七月十三日）したと考えれば分かり易いのだが、八月朔日には江戸にも及んだ。わずかに二週間余りで伝播したことになるのだが、海路を考えるとあながち不可能な日

数ではない。今後このあたりを各地の古文書にあたつて調べてみると興味深い事実が現れてくるかもしれない。

おわりに

安政年間、確かに暴瀉病が大流行した。一地方（上州）の医師上原元伯はその窮状に接して、その病気を仔細に見つめ、文献を渉獵して、自らの治療法を『暴瀉病二付』という一文に認めた。それは後世に残しておかねばならぬという熱意のようなものを感じて、時の隔たりを忘れて元伯と対峙、教授されている気分させられ、感銘深かった。

今迄の史料を通して、当時の人たちはコレラが流行するということは十分に知っていたのだが、不思議なことに、どうも感染（伝染）するとは思っていないかったフシがある。今まで述べた元伯の書にも、「触れ」に

も、あるいは『安政記聞』にしても感染することを示すような言葉は一言も無いのである。杉本鉞子がその著『武士の娘』（註七）に「御維新前から悲哀の打続いた後、母は喘息に悩まされておりました。私ども一家のものはこれが前世の罪業によるものだと信じきっておりました」と書いているのを見ると、当時病氣というものは「神」（疫神、悪霊など）のなせる業とされ、まさに流行病も然りで、それ以外は考えようもないものとして一般人は認知していたのではなからうか。

しかし一方、立川昭二は、橋本伯寿の『断毒論』の中から、「ふさという妊婦が、麻疹を避けようと各地に逃げ回って無事出産した」という実話を紹介（註八）しているのだが、実は隔離することなどは当時一般的には認知されていなかったはずである。もし感染することが分かっていた

たならば、「触れ」にもそのことが推奨されたはずだろうし、当然コレラの渦中にある多くの人たちも同じように逃げ回っていたにちがいない。橋本伯寿という医師（註九）は感染するという卓見を持っていたとしてもなお認知されるまでには至らなかった、と考える方が無難のように思われる。いずれにしても流行するということと、感染（伝染）することは分けて考えなければならぬ。

ともかくも今回偶然に接した上原元伯はとんでもない資質、力量を有した医師の一人だったように考えられ、地方でもこれほどの逸材がいて嬉しくなったのだが、それ程の医師ならば当然しかるべきところに記録・顕彰されているはずだと思つて入念に調べてみたが、その痕跡すら見つけることができなかった。かように江戸時代後期からわずか百五十年ほどで歴史上から人物の名前が全

く消え去ってしまった。これが世の中の現実なのだろうと感慨深く思つた。

せめて今回、上原元伯の熱い思いをこうして発表し、顕彰できるなら嬉しいことである。

註と文献

一 服部 瑛…群馬県医師会報、

七九九…三八、二〇一五

二 服部 瑛…群馬県医師会報、

八〇〇…三九、二〇一五

三 『天保雑記』に彗星の記載がみられ、

それはドナツチ彗星と命名されている

四

金井幸佐久、高橋忠夫…『高橋景

作日記』、高橋景作日記刊行会、

一九九五

五 芳香散は、桂皮末・山椒末の配合剤

で悪心・嘔吐などに有効とされる

六 江戸安政時代の事件を聞いて書き記

したもの

七 杉本鉞子…『武士の娘』ちくま文庫、

一九九四

八 立川昭二…『近世病草紙』、平凡社選

書、一九七九

九 香西富子…『日本医史学雑誌』、

五五…四九九、二〇〇九に、その理

由として政治的側面について考察している。

魑魅魍魎

豊泉 清

短い時間で手際よく仕事を片付ける

場合などに「さっさと」と形容する。

仏教用語の菩薩を「ぼさつ」と読む。

若い修行僧が經典の勉強をする際に、

画数の多い菩薩という字が面倒臭い

ので思い切り省略し、草冠だけを二

つ書いて「ぼさつ」と読んだそうで

ある。自分用のメモ帳ならどんな字

を書いて構わない。草冠だけを二つ並べて書くと、あたかも「ササ」のように見える。そこから楽をして仕事の手抜きをすることを「さつさ」と言うようになった……という語源説を聞いたことがある。眉唾臭い感じがしなくてもないが、話の筋だけは通っている。

余談だが、手抜きをして仕事をさつさと終わらせることを「要領がいい」とも表現する。見えない所で手抜きをするという軽蔑の意味が込められているから、相手に面と向かって「あなたは要領がいいですね」とは絶対に言わない。逆に仕事のつばやこつを心得ておらず、時間や労力を費やす割には良い結果が出せない場合には「要領が悪い」と形容する。つまり要領は「いい」も「悪い」も共に軽蔑語となる。

菩薩は草冠を二つ書くという話題

に端を発して、同じ部首を二つ書く漢字語を探してみた。

草冠	薔薇	葛藤	葡萄
足偏	躊躇	踰踰	躑躅
言偏	諧謔	誤謬	誹謗
鳥偏	鵲鵲	鸚鵡	鴻鵠
女偏	妊娠	婚姻	嫉妬
人偏	僥倖	伯仲	伴侶
木偏	桎梏	橫柄	標榜
口偏	啖呵	喧噪	咀嚼
王偏	瑪瑙	琵琶	琴瑟
犭	狡猾	狼狽	狩獵
辵	送迎	遠近	逍遙
亻	狂悖	愉悅	憐憫
月	膀胱	臟腑	肝胆

漢字の部首としては月を「にくづき」と読む。腸、腹、肺、脾、脛などは月を左側に書き、胃、腎、背、脊、膏、臂、臀などは月を下に書く。因みに「脇」の月を下に書くと「脅」の字になる。漢和辞典では本来は同じ字だったと解説している。

齒偏 齧齧 齟齬

齧齧を「あくせく」、齟齬を「そ」と読む。漢字の部首としては「齒」ではなく、何故か旧字体の「齒」が使われている。「むしば」を意味する「齧」や、「はぐき」を意味する「齧」もやはり「齒」の部首を書く。

虫偏 蜘蛛 蜥蜴 蚯蚓 蟋蟀 螭螂 蛞蝓

蜘蛛（くも）、蜥蜴（とかげ）、蚯蚓（みみず）、蟋蟀（こおろぎ）、螭螂（かまきり）、蛞蝓（なめくじ）、蛭蟥（かげろう）など、虫偏を二つ書く宛字読みがいくつもある。

氵 淘汰 漸減 混濁 泡沫 混沌
浚渫 潤沢 深淵 漏洩 灌漑
沈没 流浪 滂沱 澎湃
氵を二つ書く言葉は多数の例が見
つかった。

疔 疾病 疫病 疼痛 疔痛 癰痕

痘瘡 癰癰 痔瘻

職業柄お馴染みの疔を書く言葉には、瘡癤（しょうれい）、瘰癧（るいれき）、瘰疽（ひようそ）、瘋癲（ふうてん）など、超難解な字も多い。

用例が一語しか見つからない部首もあった。衣偏の袈裟、鹿偏の麒麟、

骨偏の髑髏、目偏の睥睨、馬偏の駱駝、米偏の糟糠、土偏の坵塢、糸偏の経緯、牛偏の牝牡、シ（にすい）の冷凍、イ（ぎようにんべん）の彷徨、影（かみがしら）の髟髟、勺（つづみがまえ）の匍匐、戈（ほこづく）の戊戌、革偏のなどである。戊戌の音読みは「ぼじゅつ」、訓読みは「つちのえ・いぬ」という干支の名称である。鞅鞅は「春宵一刻直千金、花有清香月有陰、管楼台声細細、鞅鞅院落夜沈沈」という蘇軾の漢詩で

習ったことがある。ブランコのような遊具たそうである。

話のついでに同じ部首を三つ書く言葉を探してみた。

檳榔樹（びんろうじゅ）木偏を三つ書く。臘腦臍（オットセイ）月を三つ書く。狐狗狸（こつくり）才を三つ書く。古代の占いの一種だそうである。

では同じ部首を四つ書く言葉があるだろうか。表題の魑魅魍魎を「ちみもうりよう」と読む。驚く勿れ、鬼の部首を四つ続けて書く。私が調べた範囲内では四文字連続が最長だった。

表紙に「漢字の部首」と書いた帳面を用意しておき、同じ部首を書く言葉を目にとると片端からメモしておく習慣が身に付いた。永年に亘って書き溜めておいた雑ネタの中から適当に選んで羅列するだけで、投稿

締め切りの前の晩に僅かな時間で一編の随筆が楽々とまとまる。自分では「要領のいい」執筆の方法論だと思っている。

記備談語 4 (28・02～28・06)

都道建設

佐藤 玄祥

中野区内で唯一残る「茅葺き屋根」の古民家（同区白鷺）が、長年手付かずだった都市計画が昨年度の認可により、いよいよ実施されることになった。持ち主は別住まいだが、私設保存会が立ち退きか、取り壊しか悩んでいる。

江戸末期、万延年間（1860年頃）移築され、屋敷林の中で一般農家の茅葺き住宅が現存する珍しい例だそう。

一方、品川区荏原の星薬科大学正

門前が東京都市計画幹線街路放射都道2号で遮断されることに反対の署名2万余を都知事宛に提出された。

区画整理は遅きに逸し、我慢・犠牲は付き物だが一方的な上意下達は民主的ではない。(28・02)

議員の発言

いやしくも、国会議員である以上、ご自分の発言・行動に責任を持って、戴きたい。そう言った意味合いで、逆に議会に関心や注目が注がれるならば、それもいいか。何とも情けない話ではある。

参議院憲法審査会丸山和也委員…オバマ大統領への奴隷表現。

閣僚発言…(予算委員会) 高市早苗総務相…放送法違反に電波停止。原発被爆線量1ミリ以下の無根拠。麻生太郎財務相兼副総理…中小企業の廃業が1つや2つ、百や千。丸川珠代環境相…国が決めた第一原発事故

の長期目標を「何の根拠も無い」。環境の日(6/5)を6月1日と誤答弁。島尻安津子沖縄北方相…担当の「歯舞が読めず。丸山発言に対し、与党から「言論統制するのか!」の野次が出たのは、国際問題をどう考えているのか、議員の資質が改めて問われる。全く論外は宮崎謙介議員の育休中不倫問題発覚、辞職である。何とも騒々しい。(28・03)

処方箋の電子化

厚生労働省は4月を目処に処方箋の電子化を解禁すると言う。関連省令の改正である。薬の種類だけでなく、病名や体質に付いても医療機関と薬局の間で情報共有化が進み、患者に合った処方や調剤がし易くなる。今までの医療機関発行の処方箋は、極端に言えば全国どこでも、薬が入手出来る。電子化によると、特定の薬局に限定されるので、医薬分業

は形骸化してしまう。

患者の同意を得て、医師は処方箋データーを地域医師会運営の中核コンピュータを通して薬局(つまりは指定化である)へ送る事になるそう。

電子化のメリットは病名や検査結果、後発薬品への変更・情報交換等はあるものの医療機関間の癒着は否めない。(28・03)

高濃度PCB

1968年カネミ油症事件が起きた。米ぬか油にPCB(ポリ塩化ビフェニール)が混入し14000人の健康被害が出た。未だに体内に止まり障害を生じている。古い話だが未だ続きがある。

環境庁は今国会に、電気機器の絶縁油・蛍光灯等に使われていた「有害物質ポリ塩化ビフェニール(PCB)」の取り扱い規定…廃棄物処理特

例措置法改正案（一定期間内の廃棄義務）を提出する。

変圧器や蓄電器に含まれる大量の高濃度「PCB」廃棄物を、今後8年間を処理終了目標としている。気の長い話ではある。

事件後、多くの関連事業者が廃棄に焼却処理をしていたが、ダイオキシンが発生するため処理が出来ず貯蔵保管していた。

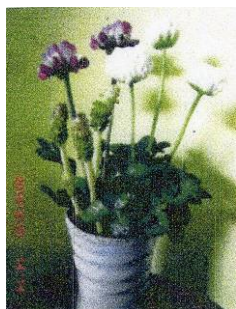
現在「PCB」は苛性ソーダーや酸素で化学処理し、水や食塩・二酸化炭素に変化させ無害化している。

(28・03)

パンフラー

春の訪れが一足先にやって来た。つくし・シロツメクサ・蓮華草が満洒な花瓶に生けられて、贈られて来た。

数年来、HSP入浴法（28・01）を実施している“自然回帰水の銭湯”



また拝見したいものだ。

(*)パンフラーとは食パンと粘度を

で高名な高田寺の小杉湯の休憩サロン室では、いろいろな作品展が開かれている。先日、パンフラー(*)の展示があり、そのボタニカルアートの余りのすばらしい、本物ソックリの出来栄えに感動して、感想文を記録し帰った。その作者から、礼状と共に私に贈ってこられた（写真）のだ。添え状の達筆が一層作者の“佳人”を際出させていた。塩崎綾子さまを中心にした女性のグループの作品であり、ほのぼのとした春の暖かさに触れる思いを感じた。

次回は

30年12月とのこと、いいご趣味なので機会があれば

向山僚一画伯

捏ね、着色しほんもののソックリの質感と艶を出す造形美術である。

(28・03)

毎年春になると、伊勢丹で「信州の風景」の個展が開かれていた。敬愛する向山僚一画伯が40年に亘って実施されていた（ギネス級の出来事）美術展が40回を期して終了することになった。先生益々お元気なだけに、残念ではある。



「二枚の絵」の美術誌で、信州をこよなく愛し、信州の山々・風景を描

かれてこられた画伯と出会い、毎年（0号・SM）を一品ずつ（13枚）購入し治療室に飾っている。87歳と年も近く、先生の取材の元気さと情熱の深さに圧倒されている。そして、信州人としてまだまだ「信州」を宣伝されている。



筆者 画伯

略歴

1928年 高遠町出身
1954年 白日展初入選

1965年 日展初入選
1976年 伊勢丹個展（以後毎年）
1993年 紺綬褒章
2015年 40回個展終了
西東京市在住

（28・03）

笑いと疾患

日常生活で殆ど笑わない高齢者は、ほぼ毎日笑う高齢者に比べ脳卒中（1.6倍）心臓病（1.2倍）になり易いと東大の研究チームが20934人の調査から発表した。

笑いは動脈硬化やストレスを軽減する。よく笑う人ほど効果が高い様だ。時にはバカ笑いも必要で、落語や漫才を聞いて、一人で大声で笑う事に慣れようではないか。恩師浪越徳治郎先生の「笑いの返報性」がそれを証明している。ワッハッハ
！・・・

（28・03）

人生百年社会

政府が掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けた、さまざまな施策等の中で「人生百年を想定したライフデザイン」が経済産業省で3月30日報告書を公表した。

そこでは高齢者が転職で培った経験や知識などを、企業や大学の機関で発揮出来るように、と強調し「定年後は隠居生活」といった社会通念の変革を目指す事になる。

経済産業省は70～80歳代の高齢者が活躍出来る社会の到来を実現する意向が強い。それには表題に向かつて身体強化と脳の老化防止に更なる挺入れが伴い、「死ぬまで働かせるのか？」といった二律背反と老人の知識・経験を遺す楽しみを目指し・今後の超高齢者の励みになれば嬉しいのだが・・・

それは、若者たちの職域を犯すのではなく、あくまでも、経験を尊重

し、出来ればボランティア活動の中で、高齢者の生きがいと下流老人を脱却する意気込みをもつて対応し、輝いた高齢者として、社会はまだまだ私たちを必要としている。『百年社会』を構築しようではないか！

(28・03)

御嶽海 対 正代

日本中が沸いた琴奨菊の初優勝は春場所の綱取りは夢消したが、他の二人の大関が刺激され、優勝争いからみ盛り上がった。結局は白鵬の36回目の優勝で終わった。

次世代の横綱・大関候補と目されて台頭してきた、御嶽海と正代（しようにだい）がいい星を争っていた。とくに正代は初土俵以来負け越し無し快進撃で、初場所には敢闘賞を受賞、病気休場を含んだ御嶽海が、今場所はこれに對峙し、共に9勝5敗同士で千秋楽に見事好敵手正代を

破り、10勝5敗と二桁の星を挙げた。

御嶽海は大型力士の対応が今後の課題で、幕内上位・三役を狙うには将来を踏まえての稽古あるのみ。先ずは休場明けの今場所の敢闘を褒めたい。地元を中心にした後援会が充実して来て、場所を盛り上げている。嬉しいことだ。

(28・03)

高校生と政治

18歳以上への選挙権年齢の引き下げは、高校生は校外での政治活動参加には前以て届け出る義務があるため、学校では校則の変更が必要になって来た。

主権者としての権利を自らの責任で、適切に行使できるよう生徒に教え導く事は、学校の権限であり、責任であるとするれば、この届け出制は公職選挙法違反になる、つまり違憲の疑いを生ずる可能性がある。

政治活動は憲法上の表現の自由に

根差す権利であり、生徒が制約を感じたり戸惑ったり又自主的な活動を控えたりすれば、基本的人権の侵害に等しくなる。

年齢によって、高校生か否か、同年代の若者間の政治活動の自由と権利の格差も生ずる。文部科学省は違憲をどう処理するのか注目したい。教育委員会も困惑している。

(28・03)

短観の悪化

4月は新年度が発足する。日本銀行が発表した3月度の短観（全国企業短期経済観測調査）で景気現況は・2013年6月の「アベノミックス」の水準迄悪化したとある。

背景には円高・新興国経済の減速及び消費の低迷の三要因がある。円高は輸出に今後の景気警戒があり（113→112円）の想定と、中国など

の「鉄鋼」の経済判断指数「DI」の悪化・爆買い」を含めた消費の低迷等消費者の財布の紐も堅いまだ私事でもあるが、一昨年来の企業年金（薬剤師年金）が少ない中での5割カットが一方的に示され実施されている。「入るを計って出るを制す」の無駄を省く節約ムードで自己防衛を計らなければならない。

消費税増税は順延ではなく、止める時に来ているのだ。財務省は消費税率10%引き上げと同時に、軽減税率の内容繰引きを計っているようだが、ややこしい。

(28・04)

安全保障関連法

ちよつと堅い話題が続く。

国家は「国民」と「領域（地・空・海）」そして「主権」の三つから成立している。国の安全保障は、この三つを守り、国民の生命・財産を保護

し、平和を保つことである。国を護る権利は、自衛権（自国を守る）と呼ぶ。個別的と集団的があり、国連憲章が保有権利を認めている。

3月、表題の法案が国会で可決された。今後は、アメリカ軍等への武力攻撃で日本の存立が危ぶまれる事態に限り集団的自衛権を行使出来ることになる。

国連平和維持活動（PKO）を巡り、「駆けつけ警護」も認められた。自衛隊への任務付与等キナクサイ問題も残るようだ。

安保論議再燃は根深いのだ。

(28・04)

流れと水玉

NHKの水の実験にお付き合ひ下さい。

細いゴム管に一定の圧力で水を流し、壁面に直角に当てる。12 cmから

離れてゆくと、重力の関係で大きな水玉が続き、流れ落ち、落下面で“しぶき”となって弾ける。

男子トイレが汚れる原因が判明したのだ。同じ水圧なら壁面へ12 cm位で放水すれば周囲に飛び散らないのだ。老化により、放水力が衰えて圧力が減るから撥ねる。

近頃は、家庭の蟬か“男子の「小」”も“腰掛けてどうぞ”の張り紙が見られる。飛び散って臭いが残るのを防ぐためと思う。

便器を汚さないためにも、もう一歩前進しましょう。アメリカの男子トイレに目標（標的）を貼って（描いて）あるそうだ。

「ためしてガッテン」は今月から「ガッテン」になる。試してみよう。

「標語」

朝顔の外に落とすな 棹の露

(28・04)

略語と記号 TPP とは？

日常生活の中で、アルファベットやカタカナの略語が増えている。文脈を離して、文字だけを見ると、何とも無味乾燥で味わいの無い言葉が氾濫している。

終戦後、学校にPTAが発足した時、今までの父兄会に先生が加わり、これが民主主義なのだという実感が思ひ出される。

それ以来、なんでも横文字の簡略化が進み、更に日本語の3～4文字表現が多くなって来た。日本語は「文字」が事象、内容を表すのに、明治の文明開化の先覚者達は、大いに苦心した結果、現在に残る「言葉」として使用われている。

健康心から「健康」、経世（経国）済民から「経済」が造られ成り立ちの意味が良く判る。文字の国中国の今は「判じ物」の様だが、的を射た表現が多く、発音は別として意味が

判る。調べると興味が湧く。

TPP（環太平洋連携協定）は重要な課題として一般化した、それにしても生活の中に記号のような略語が増え、味わいのある言葉や表現が急速に減って行くと、暮らしそのものが益々無機質・人工的になりそう、老人は従いて行けない。

(28・04)

御神木と御嶽海（入門一年）

諏訪大社の御柱祭は「寅と申年」の7年に一度の開催に、中野区長野県人会の郷土訪問旅行を企画、4月3日に実施した。詳細は「信州の東京」で速報した。幸い不安定な天気予報の中、信州方向は晴れて来て、神木落としの奇祭見物は4本目を目の当たりにし、5階建の櫓・敷は満席の大盛況、テレビ・新聞でも報道され、全国可視化である。

“御嶽海”の大活躍は地元長野で

も、信濃毎日新聞社が「御嶽海（入門一年）（¥1000）を特集 発売したので激励を含めて購入した。長野のK女史が関連の「信毎」の切り抜きを送って呉れる。五月場所に向かつて、共に学生相撲の王者の「正代」という好敵手と、これから横綱・大関に向かつての精進を期待 応援するのだ。（信州関連記事2報）

(28・04)

パンク代 13,000円

ひどい話である。安物買いの銭失いとはこの事か！と痛感し、購買者が惑わされないよう、同じ轍を踏まないようお知らせしたい。

通信販売（通販）大手新聞社広告取扱の格安（4万円弱）電動自転車（昨年2月購入）「Airbike®」26インチが4月中旬パンクした。自転車にはパンクが付き物なのだが近くの自転車屋さんは何処でも比のタイプ

のパンクは特に後輪はモーターが絡むので修理出来ないかと断られてしまった。組合協定らしい。自店購買でないためか。

メーカー日本タイガー電器KKでは送料往復（8千円）負担修理代5千円ですとの返事だ。冗談じゃない。パンク1カ所13,000円である。ごく遭遇する些細なパンク対応が出来ていないメーカーの態度、アフターサービス皆無は怒り心頭である。さらに4月24日、読売新聞朝刊に4段抜きで、また広告で募集中。売り逃げの感じだ。よく見ると小さく修理しますと書いてある。消費者センター、関係官庁へ訴えたい。

(28・04)

年齢と違和感

作家の黒井千次さんは1932年生まれ、何と日本芸術院長であられ、年齢相応のエッセイに何時も共感し

ている。

TVや新聞に登場する人物の年齢表示が気になり、殆ど無意識で特に同性の方との、ご自分の年齢と比較されているようだ。受ける印象は様々で、同じ年代の相手に対し、その方が若し元気で、意外に若く見えたりすると焦り、逆の場合には優越感を覚え、背筋が伸び、僅かでも若くなつた気分になる。それが生き続ける上での貴重なエネルギーとなる。他人との比較だけではなく、自身身の「老人」の判定は難しい。そのこと自体が老化の著しい進行を示しているわけである、と語られていた。タップリお在りの白髪と知的のエッセイの表現は、まだまだお若いのが肉体の衰えに関する表現が多いのが気になる。サルコペニア（筋肉疲労）にご留意の上、不労萎縮を補い、さ

(28・04)

納得手出来る逝き方

超高齢化社会の中で、医療介護の現場の声として、表題の「死について考える」問題提示があつた。それには、高齢者が自宅で突然倒れ救急車内で心肺停止の中「救命措置要請の確認」を請われ、処理後入院先で死亡された。家族は、助からないのなら自宅で静かに見送つた方がよかつたのではないかと悔やまれていたとのこと。

理想は、ご本人の意思を確かめ「終末延命治療不要」等家族内で話し合い、かかり付け医師の確認をして置かないと、急死・突然死等事故性のため、希望しない病理解剖があつたり、家族が困惑するケースが多い。望んだ場所、苦痛が少なく、家族との時間がある「質の高い死」が理想、悔いのない「逝き方」を考へては、と提言があつた。

高齢者の、食事が細く睡眠時間が多くなる「老衰」が健康年齢の延長にあるとすれば静かな死も恐れなくて済む。

孤独死防止のためもあつてか、中野区から「一人暮らしの高齢者」に民生委員の訪問確認の案内が来た。周囲に迷惑を懸けない一策でもある。

(28・04)

オートファジー(自食作用)

細胞は栄養が不足すると、自身の一部を分解して栄養素を作り出す。これがオートファジー現象で、東京工業大学大隅良典教授が1988年発見された。

オートファジーは、細胞が持つ「リサイクル」の仕組みである。1993年には、オートファジーに必要な14種類の遺伝子を発見、論文は年間10本程度から、今や2000本を超え、医学生理学分野の一大テーマに

発展した。

この仕組みは「ゴミ処理」にも役立つ事になる。アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経疾患の特徴の一つが、細胞に異常なタンパク質が溜まると、オートファジーを活性化すれば分解され、病気の進行が抑えられると期待する。

一方、オートファジーがガン増殖を助ける可能性もある。さらなる臨床試験が期待される事になる。

(28・04)

校歌

小学校から大学まで、学び舎での校歌が時を超えて口ずさめば懐かしく往時が思い出される。忘れないのである。

日本で初めての校歌は、明治初年に開校した東京女子師範学校(現在の「お茶の水女子大学」)の「磨かば玉も…(昭憲皇太后御歌)」と

されている。

私の母校、常盤小学校(中央区)は明治5年の学令発布時が創立で都内有数の古い名門校は「常盤松」を謳っている。

1900年、長野師範の校歌「信濃の国」は信州を歌い込んだので6番の大作で、巣立った先生の卵が県内に赴任し広め、長野県人の心のより所として、今も歌い継がれている。

学校薬剤師として現在も奉職している地元中野区上鷺宮小学校の校歌も、創立37年の新設校なので、ユニークな歌詞と擬音や手拍子の入った明るい曲調(作詞…宗左近・作曲…三善晃氏)の現代的校歌である。校歌は高校野球でおなじみの甲子園だけでは無く、みんなの心の歌なのだ。

(28・05)

保育園

子供の日、問題の多い保育園について考える。

政府は「一億総活躍社会」実現のための一端として、保育や介護の人材確保に、処遇改善を打ち出した。保育園が少ないのか「保育園落ちた：」ブログでの反響が大きく又近隣住民の利害対立で、容れ物が造れない現実もある。

子供は私達の共同体の宝で、安倍政権は出生率1.8を目指す数値目標を昨秋打ち出した。緊急対策は、国を挙げて取り組むべき課題ではないか。今年の選挙の争点にしてもいいのだ。政府は三党合意の「社会保障と税の一体化改革」について、こども・子育て支援に対する財源不足に予算配分の見直しが必要である。今月中にも「一億総活動プラン」に相応（ふさわ）しい実効性のある対策を打ち出して欲しい。

(28・05)

歌声喫茶

高齢者のノスタルジー（郷愁）として、ナツメロに値する「歌声喫茶」が、世代を超えて人気が復活している。

歌唱リーダーを先頭に、共に歌い合い、人間味溢れる社交の場として、昭和29年に新宿歌舞伎町にオープンした「灯（ともしび）」は当時、ロシア料理店だったので、ロシア民謡が流れ、それが主流となり、お客さんが一緒に歌い出したことがきっかけで「歌声喫茶」が誕生。「カチューシャ」や「どん底」など学生・サラリーマンを中心に、みんなで歌い合い、おたがいを理解し合った低廉の青春社交場であった。

コザック衣装のリーダー「カチューシャ」の木村俊明さん（平成20年11月死去）が残した伝統は、廃止を惜しんだM女史によって、今も仲間

たちが月2〜3回集まって、マイクなしの地声で歌う歌謡喫茶「カチューシャ」を新宿3丁目のビルで続けている。

時間の許す限りの参加が私の元気の源泉でもある。

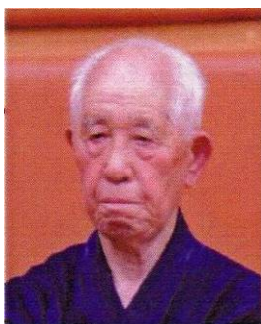
(28・05)

ゼロ戦特攻隊

友への鎮魂に支えられた90年

わが鷺宮剣友会は創立45周年を迎える。会長として更なる喜びは、剣道師範としてご指導を戴いている「大館和夫（1926生）」教士7段が、「初めて明かす特別攻撃隊について」戦後70年の沈黙を破って、戦争の真実を、ジャーナリスト「西嶋大美」剣道錬士6段と元地検検事正「太田茂」錬士7段の両氏によって纏められ、近く上梓されることになったことである。

「特攻」とは搭乗機もろとも肉弾突撃で、敵艦に体当たりするゼロ戦



おおだいら 大館 和夫 (1926-)



搭乗員の事。「神風特攻隊」が著名である。「ギムタク」が先生のモデルとして映画化された。

元少年特攻隊員大館和夫氏が、南海に散った戦友への鎮魂の思いを語られ、お二人が取材して戦後70年を機に出版されたものである。

17歳での予科練から特攻隊員に志願。軍人として、自分の命を差し出すのに、異議は無かった。台湾の基地から7度目の出撃直前、玉音放送により、奇跡的に生還されたのである。

戦後、警視庁警察官となり、名刑事として活躍、警視正で退官。剣道に終生を打ち込み、私共剣友会の師範として、33年に亘って少年剣道の指導を続けられている。91歳の今も矍鑠として、一日も休む事なく、鍛えられた健康なお体は、会の至宝である。いつまでもお元気であって欲しい。

多くの方々に一読をお勧めする。

TEL: 03-3813-4466 (芙蓉書房出版)

(28・05)

歌謡大会 創立35年40回

5月21日、指導している「カラオケ愛唱会」が表題の記念大会を開催した。大勢のゲスト歌手の皆さんの応援で盛大に挙行できたことに感謝である。

昭和57年4月創立以来、私と共にカラオケ文化向上のために多くの方々の協力と応援で、今回40回の大会を迎えることが出来た。

「継続は力」とは言え、一人では出来ない。会員、歌仲間そして、同時期に立ち上げた日本アマチュア歌謡連盟(通称NAK)のご協力の賜物である。

歌好きが友を呼び、友が歌好きを実証出来た。入会20年以上の方が6名も居られ、会の冒頭で表彰をした

が、わたし自身も35年になる訳である。それもこれも、健康であり、声を出すことで、心肺機能を向上させる証しと自画自賛して居る。

節目は過ぎたが、何時まで続くやら自分自身も判らない。最近は歌の世界でも高齢者特に90歳代の元氣印に驚かされて居る。まだまだ、指導の要望はあるみたいだ。

(28・05)

御嶽海 敢闘賞受賞

大相撲夏場所11日目、御嶽海は相星の学生横綱の先輩「遠藤（再入幕）」と対決、敗れたが11勝4敗で見事「敢闘賞」を受賞した。幕内上位の負け越しが多く、来場所には新小結(新二役入り)が内定して来た。

大型力士対策も「臥牙丸」を破り、稽古が実ったようだ。力強い突き押しで三役経験者6人に勝ち、いよいよ上位陣(横綱・大関)と総当たり

になる。好敵手「正代」が一足先に敢闘したが「これで上のステージに上がる」と新たな一步を踏み出すことになる。長野県出身力士の三賞受賞は昭和26年夏場所「大昇」、新三役は昭和7年2月「高登」と記録破りの快挙である。地元の応援はポルテージが更に上がる。なお一層の稽古に励んで、期待に応えてもらいたい。

(28・05)

公私混同

又しても、国税の無駄使いが問題化して入る。政治活動資金が何たるか充分ご存じの、舛添要一東京都知手の、公私混同の金使いと週末公用車の別荘通い等である。

政治活動とは確認できない、飲食費・家族旅行・ホテル宿泊代(一部返し、釈明したが盗つ人猛々しい)更には多額・法外の大名旅行とやりたい放題の公費の乱脈消費。セコイ

というかミミッチイというか、猪瀬前知事の5千万事件で交替した事実をどう考えているのか。第三者、第三者とご自分の都合の良い弁護士に調査させると言って時間稼ぎ。都議会も「百条委員会」開催に難色を示し、替わりがいなので辞任に追い込めない等真相追究に戸惑っているのが現実である。

公人が「秘書が」と逃げ回っても、責任は本人にあるのだ。前知事は「百条委員会」開催と言われて、辞職したのだ。美術品の購入や飲まないコピー代等証拠がどんどん出て来ても、第三者へと逃げ回っている東京都《恥》事の今後を見極めた

い。週刊誌が、どんどん調査し、売上を延ばしている。舛添さんは子供の教育に「道徳」をどう説明するのか。盗んだ金を返せば悪いことは帳消しと思っ

(28・05)

米大統領の広島訪問

伊勢・志摩のG7も無事終了した。安倍首相の「リーマンショック発言」は、独りよがりでの経済問題は、オバマ米大統領の広島訪問でのエピソードで霞んでしまった。

謝罪こそしなかったが、オバマ大統領の本音では、原爆投下について「申し訳無い」と思っているからこそ、広島を訪問し、被爆者との交流に誠意が伝わり、素晴らしい成果を挙げられたのだ。

核兵器は悪いものとの認識は今や、自由主義を掲げる国の持つ基本的な考え方で、過去への謝罪に拘るよりも、どう平和な世界を維持するかを、如実に志されていた。

世界の指導者として最高の行為と受け止めた。特に、被爆者との自然のハグは最高の出会いであって、ご

自分で折られた「折り鶴」を捧げた行為と共に素晴らしい出来事として世界中が感銘した。

(28・05)

水質検査と水素水

新学期、環境調査の一環として、小中学校の飲料水並びに、夏に向けての「プール水」の水質検査が行われる。

かつて、都市水道の水は、枯れ葉臭・塩素臭・配管の劣化(錆び)と共に、最悪の水質だったのが、現在は、高度の浄水処理技術の進歩により美味しくなり、行政が水道水のペットボトルを売り出している位になっ

っている。I園が売り出した、医薬品でも無く、トクホ「保健機能食品」の域外である「水素水」が効能効果問題で遂にメーカーも「只の水」と変わらないと表現している。理論的には「水

素水」の活性酸素除去作用はあるものの、老化や生活習慣病の元凶となる活性酸素に対する治療効果は研究途上で、商品化は勇み足と言う(法政大学佐藤健男教授)。

夏に向けた水分補給なら、高価な「水」を買わずとも、都市水道水でいいのだ。

(28・06)

受動喫煙

自分が「タバコ」を吸わないのに、他人の「けむり」にさらされる受動喫煙と因果関係にある「肺ガン・心筋梗塞」を中心とする「虚血性心疾患・脳卒中」などによる死亡統計が厚生労働省の研究班の推計で、年15,000人と発表された。即ち、肺ガン2480人、心疾患4460人、脳卒中8010人、乳幼児突然死(SIDS)70人と具体的数字の発表は、国レベルで法規制する国際

的な流れと断定、職場や公共施設の屋内禁煙の必要性を強調した。

現在の販売タバコのパッケージに「警告画像（喫煙による肺ガンの図）」を導入するアンケート（7割以上の賛成）の結果、いよいよ義務付けられる方向になりそうである。

薬物乱用防止のゲートウェイとしての喫煙は、青少年から「絶対ダメ！」と麻薬並の警告をすべきである。世の父親と家族のため血液毒のタバコをやめ、健康に注意して！

（28・06）

高齢者の低栄養 しょうわじゅーす

飽食の時代なのに、栄養不足（低栄養）が特に高齢者世代に多いという。〃50歳過ぎたら「粗食」は止めなさい〃（草思社）。

東京都健康長寿医療センター研究所によると、高齢者の低栄養とは「小食で、タンパク質・炭水化物・脂質・

鉄分などが不足し、カルシウム・葉酸・ビタミン類などが不十分な状態」を言う。

「しょうわじゅーす」（28・01）で紹介した粗食は、高齢者にとっては更なる肉体への運動量に比例して、栄養素の補給の妨げになる。前言取り消しが必要になる。「粗食」は「実食」又は「充食」と言い換える事になる。〃しょうわじゅーす〃である。枯れて死を迎えるのはまだ先の事とし、高齢者の食事情も成人並にしなければ、充実した高齢社会にならないのだ。つまり、高栄養な食事をバランス良く小食にして、和食で取り更に薄味を保ち、30回噛むと訂正する。

（28・06）

スバル

昭和38年、子供が二人になったので中古の〃スバル360〃を初めて購入、私の第1号のマイカー時代が

始まった。

フォルクスワーゲンは「ビートルズ（かぶとむし）」と呼ばれ、世界中の愛車需要に応えたが、我が国の「富士重工業」（前身は「航空機製造の中島飛行機」）の「スバル」も同じ空冷エンジンで、ボデーも頑丈の上、馬力もあつた。戦後財閥解体令の後、分けられた六つの会社が再び集まって、富士重工業が発足、六つの星のスバル（おうし座）が誕生したのだ。

戦後の有楽町にあつた「スバル座」（外国映画上映館）がタイロン・パワーやイングリット・バークマンの映像で、青春時代を思い出す。谷村新司が「昂（すばる）」を歌い出したのは昭和55年、カラオケ界では歌謡曲の代表的古典になっている。堂々たる内容の長い歌である。

「スバル」は外国語では無く、「星すばる」と平安時代からの日本語で

輝く六つの星が夜空に輝いている。
「スバル360」は今も走っている。
頑張れよ！
(28・06)

ニホニウム(Nh)

化学を学んだ者にとつては「元素周期表」が懐かしい。日本の理化学研究所の人工元素合成した原子番号113が「ニホニウム(Nh)」と命名された。100年前1908年「ニッポニウム(Np)」が間違つて報告されて以来の快挙である。

人工元素の合成が欧米とロシアが圧倒的に優位なのは核兵器の開発と関係が深い様だ。非核三原則厳守の日本では、理研の森田浩介グループダイレクター等が原爆開発研究をした「仁科研」の流れを汲む研究室と明かした上での報告である。

原発も原子核を使う。原発事故に対して、真剣に向き合い、科学に対する信頼を回復させなければならな

いと語られた。1秒も持たない存在なのに、事実は事実だ。

「日本(ニホン)」が周期率表に入つたと喜ぶだけで無く、科学がどうあるべきかを見極める機会なのだ。

(28・06)

権力と資質

事の発端は「公私混同」権威者の奢り(おごり)から、その資質を問われ、都民の総スカンに会い、辞任に追い込まれたのが舛添要一東京都知事である。

応援した与党も選んだ都民にも責任はあるが、政治家の毎度変わわりなく、権力・権威にしがみつく実態が明らかに、メルトダウンしたのだ。

ここ毎日のニュースで賑わして居た「人格と資質」は、教育面にどう反映したか考えてみたい。「嘘+詭弁」政治家」の方程式が次代を担う青

少年の道德教育面に重大な影響を及ぼす事になる。

幕が下ろされたが、「信頼と信用」の回復は大変である。これからは都民がどんな都知事を選ぶか、日本中の関心事となる。三代続いた任期途中の選挙は、国税一〇〇億円以上が使われるのだ。
(28・06)

長寿遺伝子 サーチュイン

「X物質」の老化を抑制する効果が動物実験段階で判明し、安全性と効果の臨床研究計画が慶応大学と米ワシントン大学で実施される。

X物質とはNMN (Nicotinamide Mono Nucleotide ニロチンアミドモノヌクレオチッド) と言い老化抑制の遺伝子サーチュインを活性化する。これは体内で造られ、食品にも含まれる化合物である。

「一日一食のススメ」を書いた石原結美医師は、人間は空腹になると

「サーチユイン」が非常に活性化し、健康長寿を保つと言う。空腹時は更に胃の中から「グレリン」というホルモンが分泌され、脳の記憶中枢「海馬」の血流が増し、認知症やウツ防止に役立つと言う。一日一食にする

と、糖や脂肪の取り込みが減り、体内の糖や脂肪の燃焼を促す。食べた物から熱をつくるより熱効率が良い。メタボリックシンドロームの予防効果が大きいと、石原医師は言う。多くの知識人が既に実行されて居る。「一日一食のススメ」を信じてもいいかも。(28・06)

医療費の適切使用

各自治体によって医療費の窓口負担に格差があり、特に小児医療では対象者の所得により助成に格差が生じている。

窓口負担を減らすと受診が増える。その逆もあり、命の重さは同じなの

に自治体間で差があるのはおかしい。生活保護は負担ゼロである。

今回社会問題になっている「C型肝炎治療薬「ソバルティ」一日分一錠薬価61800円」の詐取転売事件は、処方箋によって一部の生活保護者に高額の治療が施されていた。

一体、どこで、だれが実施していたのか公にして欲しい。転売は買うところがある。平等である可き医療受診が、一部の者たちの好餌食にされている。支払いは国税なのだ。

こんな事件を正し、小児医療費を無料にして欲しい位だ。

(28・06)

EU脱退

英国の国民投票は、議会制民主主義の根幹で、どう統治されるべきかについて国民に直接問うもので、法的拘束力はないが、今回のその結果は激震となつて全世界に広がった。

キャメロン首相の判断ミスとして、歴史的な過ちと言える。

そもそも国民投票で国の主要政策の決定に「白黒をつける」ことは、少数意見に配慮した政治的妥協の余地が無く、感情的大衆迎合主義なのだ。

EU離脱を巡って、英国内の国民投票が実施され、微差で脱退が勝利した。

EUに頼っていた英国経済は離脱に依つて、金融市場では世界的にもポンドやユーロの下落が不可避で、計り知れない経済の影響が避けられない。失業への不満や移民・難民の流入等がヨーロッパ全域に「EU離脱」運動を励起し兼ねない。

一つには、EUが離脱を受け入れるかに懸かっているが、英国内でも今回の国民投票の在り方に疑問を感じて「やり直し」案も出ている。日本への影響も甚大で、円高・株価暴

落が始まった。為政者の油断が判断を誤ったことになる。(28・06)

※タイトル「記備談語」について

「記事・備考・談話・語録」の頭文字から「きびだんご」として、健康関連情報や関係団体の新情報・世相のニュースから勝手連的に、日々アンテナを巡らせ、頭の老化防止に努めております。ご笑覧下さい。少しでもお役に立てば幸いです。

薬剤師・指圧師・剣道6段・N A K認定歌謡講師 佐藤 玄祥(博)

サイパン戦跡めぐり

美濃部 幸恵

アナタハンの女王

昭和26年の夏。太平洋戦争終戦から6年後、北マリアナ諸島のアナタ

ハン島から帰国した元日本兵達の体験談の異常さは、あの大戦が遠のいた現代でも私達を驚かす。理非のわからえない出来事にぞつとしながらも怪しい興味に引きずられ、その暗闇をのぞきたくなるのが「アナタハン女王事件」です。

アナタハンとは、サイパン島のある北マリアナ諸島の島の名前です。



昭和19年5月、日本の太平洋沿岸各地から海軍に徴用された艦船16隻が横浜港を出航します。各船には水兵2名、軍属の艦船船員8名ずつ(計10名)が乗り組んでいました。

それらの船の目的は、中部太平洋トラック諸島周辺に点在する多くの島の日本軍に物資輸送に従事することでした。

*かつお漁業は昭和の時代に入ると近代的な大型漁船が造られ、遠洋漁業へと拡大し、戦前からマリアナ諸島やトラック諸島方面へも進出していったそうです。(株式会社になべん)

船団は伊豆大島を経て南下し、小笠原諸島で食料を補給した後、小集団にわかれ、さらに南へと進む。

「兵助丸」は神奈川県三崎の漁船であり、函館で徴用された「曙丸」とともにマリアナ諸島サイパン島方

面へと進んでいた。

しかし6月11日にはアメリカ軍がマリアナ諸島に襲撃し、6月12日の早朝、徴用船は三機の米軍機から激しい爆撃を受け、「兵助丸」「曙丸」の両船は瞬く間に沈没し、乗組員は近くの島へと泳ぎ着いた。

さらに翌13日「海鳳丸」も撃沈され乗組員10名が漂着して来たのがこのアナタハン島でした。

アナタハン島 (ANATAHAN) 火山島 東西12 km 南北4 km 東西に長い。島最高点は787 m。(ちなみにサイパンのタポーチヨ山は473 m)

作家吉村昭氏は戦後アナタハンからの帰還者の一人P氏に会い取材している。

南海の孤島に『日本人など居ないと思っていましたが、ひょっこり日本人の男とアッパッパーを着た若い

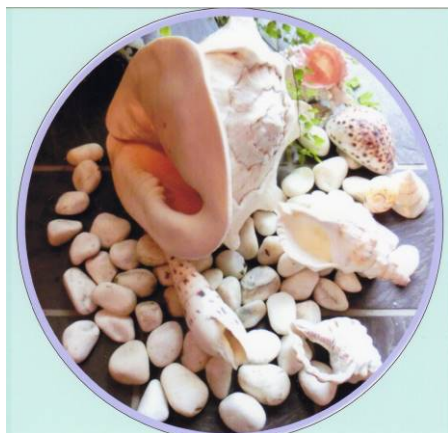
女がでてきたので驚きました』とP氏は語る。

そして…… 女一人に男31人の奇怪な共同生活がはじまったのです。マリアナ諸島は当時日本委任統治領であり、南洋興発株式会社がアナタハン島に日本人農園技師、労務管理者を置き、原住民カナカ人を使い椰子の栽培と*コブラCOPRA ココ椰子の実を乾燥させたものでヤシ油の原料を作っていた。

さて、現れた男は農園技師で妻帯者であったが戦局が悪化したために妻子はサイパン島に避難させていた。女は比嘉和子といった。16歳で沖縄から兄を頼ってサイパン島に渡ってきたのです。

その後、北マリアナ諸島のパガン島に移りカフェの女給をしていたが、パガン島の南洋興発が経営するコブラ栽培園の労務監督をしていた沖縄出身者と和子は結婚をし、1944

年夫の転勤でアナタハンに移ったのでした。やがて夫はパガンに残してきた妹を迎えに島を出たが、戦局は悪化し米軍のサイパン攻撃戦が始まり、夫の消息は途絶えてしまったのです。



パガン島

ここで、ヒガ カズコと夫になる農園技師が出会った。パガン島について書いておきたいと思います。

パガン島はサイパンから320kmに位置し北マリアナ諸島ではサイパン島の次に大きい。

長さ12km幅約4kmのひょうたん型をした火山島。

1914年から日本委任統治領となり主に沖縄からの移住者が多かった。

椰子農園、コブラ生産、マグロ、カツオ漁業が行われており、鯉節も作られていた。

昭和17年(1942年)の島の人口は、邦人413名、島民(カナカ人)229名、守備隊は2500名が在島していた。(防衛庁資料)

町の中心には、国民学校、20〜30軒の民家、神社、雑貨屋、駐在所、

医院、そしてヒガ カズコが女給をしていたカフェもあった。

*パガン島と大東亜戦争(太平洋戦争)

昭和10年(1935年)頃から哨戒基地として飛行場が造成され、2年後から海軍基地建設が行われた。

昭和19年(1944年)6月満州で結成された陸軍混成連隊第71師団が配備された。

司令部兵団長が天羽馬八少将であった。大戦中パガン島に

パガン島 (活火山)

パガン島は今日まで断続的に噴火をくり返している。

2008年5月まで2名の原住民が居たと言われているが現在は無人島

面積 48km²

最高標高 570m

火山学では「北パガン」North Pagan

「南パガン」South Paganと呼ばれる。

北東部
「北パガン」



南西部
470mの穴と称す「南パガン」
548m級の高地になっている。

は米軍の上陸はなかったが、同年6月15日には米軍がサイパン上陸。7月にはサイパン、テニアン島が陥落し、パガン島は翌年の8月15日終戦の午前中まで米軍の猛烈な艦砲と爆撃を受けていたが、午後米軍機より「日本軍無条件降伏」の伝單が降ってきた。

パガン島は昭和20年9月2日降伏文書に調印、武装解除された。

*天羽馬八少将とFOXと呼ばれた大場栄大尉

部隊が日本へ帰還した後も天羽少将は残務整理の為、残留していた。

一方絶対国防圏太平洋の防波堤であつたサイパンは、米軍上陸後1ヶ月足らずで陥落。

大場栄大尉はその後も残存日本兵を率い、民間人を保護しながらタポーチヨ山タコ山（タコの木が密生す

る山麓）に籠もり敗戦後3ヶ月半も戦い続け、勇気と知略で残兵狩りをするアメリカ軍を悩ませ、翻弄し「フオックス」と畏れられた。

『帝国軍人は上官の命令がない限り降伏することは出来ない』

大場大尉は停戦の条件に、パガン島にいるマリアナ諸島における最上級将校であつた陸軍少将・天羽馬八の命令書等待った。

命令書

「――先人将校として、本官は茲に以上の点に基づき貴下、貴下諸君に、マリアナ群島サイパン島司令官アメリカ海軍少将フランシス・F・M・ワイティングの任命せる代表に無条件降伏すべく命令す。

パガン島最高司令官陸軍少将天八。」

（引用太平洋の奇跡 大石直己著）

1945年12月1日大場隊47名は日の丸の旗を先頭に軍歌を歌いながら整然と隊列を組み米軍基地へ下

りていった。

余談でございますが「天羽馬八少将」という今時お目にかかれない、大変立派なお名前にわたくしは、ギリシャ神話の純白の羽根を持ち天空を悠然と翔けめぐるといふペガサスを連想してしまいます。

英 Pegasus ギリシャ語 Pegasus
ギリシャ神話に登場する翼を持った馬。
天馬。

パガン島は今。

北東部標高570mのパガン山は現在も活動しており、1981年の大噴火以来、2002年北部パガン火山灰火山ガスの小噴火等断続的に噴火を繰り返している。

2014年7月3日放送のNHKプレミアムアークイブス「秘境北マリアナ諸島潜水の旅」でパガン島の

映像を見ることが出来る。

戦前、戦中に旧日本軍が造成した滑走路は、噴火による溶岩流におおわれ、北側の約500メートルが荒れた草地となつて残っている。

草むらに零戦、九七式重爆撃機の残骸、塹壕などが空しい姿をさらしている。

過つての移民町は何も残らないのか映像で見たのは、無人島となつたパガンの海岸に「日本人殉職の碑」が傾き、寂しく波に洗われ日本人が懸命に働き生きた名残をとどめているだけである。

さて話をアナタハン事件にもどします。

当時のアナタハン島の人口は、カナカ人45人と、農園技師と比嘉和子で、二人は夫婦のように暮らしていたとのこと。

1944年7月7日サイパン島の

日本軍は玉碎し、テニアンも陥落、

北マリアナ諸島の事実上の戦闘は終わりアナタハンの原住民は米軍の庇護下に入り島を出て行きました。

1945年8月15日 日本は無条件降伏し戦争は終わった。

だがアナタハン島に残る日本人達は、アメリカ軍の繰り返し降伏呼びかけを信ぜず島をでなかつたのです。島では女一人、男三十一人の生活が続く。

終戦後一年ほどは孤島に残された男女間に、一応の秩序らしきものがあつたというが。

★生還者が語るヒガ カズコと言

う女性

天真爛漫、おおらかな性格、高い声でよく笑い歌っていた。彼女は男たちから「かづちゃん」の愛称でし

たしげに呼ばれていた。

……この回想談を読む限りカズコは悪女でもなく淫乱、奔放のレッテルを貼られることなく……「男から好かれる女性だった」ようです。

★殺人事件へ ピストルと弾丸

終戦後一年ほどは男女間に一応秩序はあつたが、昭和21年8月、山中に墜落していたB 29の残骸を発見した時からなまぐさい迷宮入り「アナタハンの女王事件」へと発展していったのです。

★第一の殺人

パラシュート、ジュラルミンの破片等が散らばったB 29の残骸から4丁のピストルと弾丸が発見された。壊れていたピストルを二人の水兵が解体し二挺のピストルに組み立てた。それは二人の所有物となつたのだつた。

……そして5日後、水兵の一人

が女の住む小屋にやってくると、農園技師に銃をつきつけ、強引に女を連れ出して同棲生活をはじめ。カズコは嫌がる様子もなかったが、二十三日後その水兵は突然行方不明になったのです。

農園技師と女は、その「水兵は夜釣りに出かけ、崖から海に落ちて死んだ」といった。しかしその話は誰も信じなかった。なぜなら水兵は泳ぎが非常にうまい男であつたから。

「拳銃を奪われて射殺されたのだろう」と残つた男たちは言いあつた。

★第二の殺人

ピストルは若い軍属（鯉船の乗り組み員）が受け継いだのだが1ヶ月もたたずに女と農園技師が同居している小屋にやって来て、無造作に技師を射殺してしまう。

★第三の殺人

そしてその若い軍属は女と同棲生活をはじめます。

しかし、十ヶ月後男は射殺死体となつて発見された。

被害者は不明のままになりました。

●ここでアナタハン島に漂着した男達30名を整理してみよう。

日本海軍に徴用された鯉漁船の乗組員は

兵助丸、曙丸、海鳳丸の各船に海軍兵2名、軍属8名が乗船しています。

海軍水兵6名の中に下士官級がいたようです。

下士官（海軍には上等兵曹、一等

兵曹、二等兵曹があつたが、

どの等級であつたかは不明）

水兵（水兵長、上等、一等、二等

水兵の等級があつたが等級は不明）

軍属24名（鯉船の船員）

*昭和に入ってから当時の鯉漁船の遠洋漁業では、竿釣り操業が主で、マリ

アナ諸島からトラック諸島付近まで拡大していたとのこと。

戦後の昭和54年以後より巻網漁船が主体となり（500トン未満）、海外巻網はパプアニューギニア北部海域を主漁業として総漁獲量は30〜40万トン台で現在にいたっています。

一航海は30〜60日ということです。

（株式会社になんべん）

島の日本人間に陰悪な空気が広がつた。

人望のある兵助丸の老船長の指示で凶器となるピストルが解体され海に投げ捨てられたのですが、しかし、今度は刃物による殺人が続いたのでした。

やがて島の過酷な生活で「兵助丸」「曙丸」の両船長も病死し、三十一名いた男たちは、いつのまにか二十名に減っていました。

この間にもアメリカ軍は残留日本

人たちに飛行機からビラをまき、小船からスピーカーで戦争が終わったことを告げたりしたが、アナタハン島の日本人たちは、敵の謀略だ、信じるな、と言って出て行きませんでした。

★ヒガ カズコの脱出

昭和25年4月 女は突然居なくなつた。

「あの女がいると、今後も誰かが殺される。いっそ彼女を消してしまえ」と言い出す者が出るようになり、これを知ったカズコは、身の危険を感じて密林の中を巧みに逃げ回り、5月23日、沖を通るアメリカ船にパラシュートの白い布をふって助けを求めたのです。救助された時はパラシュートの布で作ったブラウスに、縫いちぢめた兵隊ズボンという姿だという。

さて島に残された男たちは……………。

女が居なくなつて、急に「自分が日本軍の兵士や軍属である」という、につっぱん男児の心意気がよみがえつたのでしょうか？

「日本艦船がやってくるまでは、結束して島を守る」ことを誓いあったりしている。「今後日本軍が負けたなどと口にしたものは、私刑に処す」……………とまで決定している。

昭和26年6月9日 皆の指導的立場だった下士官が、単独で米軍に投降した。下士官は米軍に収容された後、同僚の救出活動に努め、米軍とともに、小船や小型飛行機からスピーカーで戦争が終わつた事実を告げた。

そうした熱心な救出活動に、疑心暗鬼だった残留組も米軍から指定されたソンソンという浜辺に集結し昭和26年6月30日（1951年）ココパ号に救出されたのです。

横浜港をでてから7年の歳月が過

ぎていました。

★迷宮入り

アナタハン島の事件は太平洋戦争末期から戦後の混乱期に起きたうえ、敗戦により日本委任統治領から米国信託統治に移行した権力空白地帯で発生したため、この事件の真相は南漠の孤島に置き去りにされたまま、迷宮入りとなっているのです。

サスペンスの島 アナタハン島

サイパン、アナタハン島を含むマリアナ諸島の出現は、なんと恐竜が絶滅した紀元前2千5百万年前から5千万年前とされているそうです。

北マリアナ諸島は海底火山群の一部が海面上に出ているもので、現在はロタ、アギガン、テニアン、サイパン、メディニラ島までは古い火山で活動はしていなく、島周辺は珊瑚礁でよく形成され、美しい南洋の海

を造っています。

アナタハン島から北への9島は地質学的に新しく、452もの火山が現在も活動している。

この火山帯は日本の富士火山帯の延長線上にあり、伊豆、小笠原諸島から北マリアナ諸島に続いてきているとのこと。

アナタハン島は1990年4月に火山性地震が多発し、2003年5月（小規模噴火）そして2005年4月に大規模噴火が起きました。2007年から2008年にかけても噴火が起こっている。

戦後の一時期島民数十名が居ましたが、全員サイパン島に移り現在は無人島といえます。



アナタハン島

アナタハンの女王

北マリアナ諸島

北マリアナ諸島 略図

小笠原諸島

- 北硫黄島
- 硫黄島
- 南硫黄島

・バハロス島

・マウグ島

・アスンシオン島

・アグリハン島

・パガン島

・アラマガン島

・ググアン島

・サリガン島

・アナタハン島

・メデニラ島

・サイパン島

・テニアン島

・アギガン島

・ロタ島

北太平洋

North Pacific Ocean

フィリピン海

Philippin Sea

北マリアナ諸島

ミクロネシア

Micronesia

・グアム島

・マップ島

・パラオ諸島

● バハロス島 (ウラカス島)

● マウグ島 (海鳥の繁殖地)

● アスンシオン島

● アグリハン島 (2003年には島民十一人が暮らしていたがその後全員サイパンへ移住した。)

● パガン島

● アラマガン島

● ググアン島

● サリガン島

● アナタハン島

● メデニラ島

● サイパン島 (北マリアナ諸島の首都 観光業)

● テニアン島 (原爆搭載機発進地。観光業)

● アグイハン島 (アギガン島) (観光 農業 牧畜)

● ロタ島 (観光 農業 牧畜)

※現在人が常住している島は、サイパン、テニアン、ロタ島の三島。他は無人数島

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

人間達の戦争による破壊、欲と愛憎がうずまいたアナタハン島は今、自然の姿にもどり世界で最も深いというマリアナ海溝の、最深部10900mを超えと言われる、この世の果ての静謐な、深い深い海の歌を聴いているのでしょうか。

*マリアナ海溝

海上保安庁海洋情報部のネット記事によれば、大正14年（1925年）日本の水路部の測量艦「満州」がマリアナ海溝の観測を行い（日本測地系9814・6mの錘則に成功。満州海淵と名付けられたそうです。その後1950年代から近年まで英国、ロシア、米国などが海溝の最深部発見の調査を行っています。

協力 美濃部 欣平

《参考引用文献》

漂流 吉村 昭 新潮社

太平洋の奇跡

フォックスと呼ばれた男 大石直紀 小学館文庫

タツボーチョ

太平洋の奇跡 ドン ジョーンズ 祥伝社

サイパンの戦い

「大場栄大尉」を読み解く

近現代史 山川出版社 編纂会編

ウィキペディア wikipedia

私の趣味と楽しい同好会

白矢 勝一

医師会に入ってから本当に良かった。まずこのことから書いて行こう。

私は平成二年に小平の地にて42歳で眼科を開業。同時に医師会に入会した。二、三年して理事会の理事

になってくれという話があった。

開業すると昔のように仕事仲間と飲みに行く機会もなくなる。一人孤独な日々を送っていたが理事会に参加することによって多くの仲間の一員としてもらえた。考えてみればそれまで気づころの知れた友人は高校、大学、同じ時期にいた医局の仲間だけであった。

医師会に入っていなければ今のようにな楽しい多くの仲間と出会うことはなかっただろう。医師会の理事をして毎月顔を合わせ、理事会のあと食事会などの交流が楽しみになってくる。小平医師会研修旅行も楽しみの一つ、気の合った仲間との一泊旅行は最高である。その二、三を紹介してみよう。忠臣蔵の旅、バスの中で忠臣蔵の映画を見ながら吉良邸や泉岳寺を訪ねるのだが、討ち入りの場面で感極まって涙をぬぐう医師会員。谷根千旅行では夏目漱石邸跡、

森鷗外記念館、日本医大など坂道を歩きながらの歴史探索。横浜ではなんとマッカーサールームに入ることができた。日本の歴史の一端に触れる旅ができるのである。

現在私は北多摩医師会のカラオケ部、美術部、写真部に所属している。最初のきっかけは「北多摩医師会」美術展に出品することからであった。人前に出品する以上いい絵を出したい。この頃から私の美術への情熱が燃え始めた。以下少々個人的な偏りのある話になるがお許しいただきたい。

子どものころ親がデッサン教室に通わせてくれたためか、絵を描くことが好きだった。医学生の時、美術部に入り油絵を始めた。医師になると忙しくて絵を描くことなどできない。勤務医生活の後開業、ようやく絵が描けると思ったが、スペインに行つて、ベラスケスの描いた『王女

マルガリータ』を見てしまった。その見事さに絵を描く気をなくしてしまった。とてもそのような絵は描けないと思つたのだ。ところがあるとき佐伯祐三の画集を手に取り絵の本質を見たような気がしたのである。

佐伯祐三の『人形』である。誰にも描けそうな絵だが魅力がある。これなら自分にだつて描けると考えた。

「絵は個性、下手でもよい、その人が真剣に取り組めばいい」との佐伯の言葉。再び絵を描く気になった。絵は自分探しの旅みたいなのである。自分しか描けない絵を探の旅

みたいなのだ。巨匠と言われる人々はその人が描いたとすぐわかる。そういう絵を求めていくのが絵の世界だろう。絵画は医学と似ているところがある。先人の研究を調べ、その先を読み解いていくのである。

いつからか私は佐伯祐三研究にのめりこんでいった。病跡学会の会員

になったのも佐伯研究に向かわせた動機になっている。彼は病跡学会でも何度か取り上げられ、彼が精神障害であつたという論文が存在する。はたして佐伯祐三の死因は精神障害がもとになっているのか？

彼の病と心身の軌跡をたどり、その人生と絵画作品との関係を知るため何度もパリを旅した。フランスに彼の足跡をたどるのも楽しみの一つとなつた。多くの佐伯関連の書物を読み漁り、その絵画人生と病について考察し『佐伯祐三・哀愁の巴里』（早稲田出版刊）という本を2012年（平成24年）出版し、佐伯祐三の絵の秘密、その病はいかなるものであつたかにも触れたが、私の結論ではその創造に関わるような精神病理が佐伯に存在するということが認められなかった。

また「佐伯祐三贋作事件」には深くかかわることとなつた。ある時、

三十数点の佐伯作品なるものが武生市に寄贈されようとした。この過程で、某氏による、佐伯祐三は国家のスパイであったとか、佐伯作品は妻米子の加筆があつたとか、荒唐無稽と思えるような内容であるが、真しやかなレトリックを駆使した本が時事通信社から刊行されるなど、本邦マスコミや美術界を巻き込む真贋騒動に発展する。

私は舞台となつた武生市の資料、新聞記事、裁判資料などを徹底的に調べることとなり、「贋作派」の立場で論陣を張り、件の通信社についても、その社会的責任を問うべく行動したが、この種の画家や芸術を貶めるようなものはとても認められないという思いであつた。

さて、北多摩医師会の美術展に出品するようになった頃、同じ小平市医師会に所属する眼科の松木先生か

ら後述する「日本医家芸術クラブ」への入会のお誘いがあつた。それで銀座のギャラリーに出品するようになった。このクラブで大村先生や玉井先生など偉大な先生方とお話してきたのは幸いであつた。現在もこの美術展で多くの先生方と交流会を楽しんでいる。都内で開業されている先生方は精力的に活動されここ数年を見ても銀座、練馬、新宿などで個展を開催されている。

「日本医家芸術クラブ」とは医師、歯科医師、薬剤師等医療関係者に関わる全国的な文化サークルである。その機関誌として「医家芸術」が昭和32年（1957年）当時の日本医師会会長武見太郎氏と梅沢「医事新報」社長などの協力により式場隆三郎によつて創刊された。式場氏は山下清を世に出し、ゴッホを日本に紹介した人でもある。

同創刊号では「医家芸術クラブ」

の規約が載せられている。第一条において、その本部を神田駿河台2-5の「医師会館」内に置くとし、第二条でその入会資格を日本医師会の会員と明記しており、文字通り「日本医師会文化部」として発足している。昭和59年まで日本医師会内にクラブがあつたが昭和59年事務所を渋谷に移している。この機関紙は日本医学の歴史の宝庫と言つてもいいだろう。

私も美術のみならず、写真部、洋楽部にも所属している。写真部では部長の竹腰先生のもとカメラ博物館での出展とそのあとの懇親会を楽しみにしている。洋楽部ではピアノ、サクソフ、フルート、ハープ、ドラム、声楽など色々な分野の方々が活躍されている。私は最近ギターの弾き語りを始めた。最近では北山修さんの「あの素晴しい愛をもう一度」を歌った。なぜかというところ今年

月18日武蔵野市医師会文化講演会に清水眼科の清水先生から元フオーク・クルセダーズの北山修さんが来られるので来ませんかという招待があった。京都府立医大の学生だった彼は当時「帰ってきたよっぱらい」でデビューして数々のヒット曲を飛ばしてから医師の世界に帰ってしまった。現在は九州大学精神科名誉教授、国際基督教大学客員教授などされている。

「あの素晴らしい愛2016」と題して北山修先生の胸を打つ講演があった。精神科医として浮世絵に描かれた母子像の研究、それは日本人の和の精神につながり、文化の継承となつていくというものだった。この研究を諸外国でも発表されているという。北山さんはご自分のことを彼と言ひ、なぜ彼はこんな歌を歌ったのだらう？それは当時ウオークマンなどが出て個々人の絆が薄くなつ

たのを感じたからではということだった。

講演のあと、「あの素晴らしい愛をもう一度」、「戦争を知らない子供たち」を全員で歌った。連帯感を味わえた北山修さんが最後に言われたが、確かにあの場にいた人すべての人が一つになったようだった。その約一か月後日本医家芸術クラブ洋楽祭が行われた。私はこの話をしてからギターの弾き語りを始めた。会場にいるすべての人も声を合わせて「あの素晴らしい愛をもう一度」を歌い再び大いなる連帯感を味わえた。

話を北多摩医師会にもどそう。私が参加しているのは他にカラオケ部、写真部である。

北山修さんの浮世絵の話や日本人の和の精神などについて北多摩医師会のカラオケ部でも話させていただきこの歌を歌うことになった。とて

も楽しいひと時であった。北多摩医師会カラオケ部も結構長い歴史がある。昔はなかなか歌う順番が回ってこなかったくらい大勢の参加者がいたが、現在は少々人数が減って2、3曲は歌える。その分交流も深くなっている。先生方の美声も楽しみの一つであるが他市の医師会の情報也得られるのもありがたい。

北多摩医師会美術部では去年から写真部が独立し、「日本医家芸術クラブ」と同様プロカメラマンを招いて批評を頂くようになった。「この写真は角度を変えて撮ればもっとよくなる、空と湖の配置を変えればよい、明暗の考え方等々」なるほどと思う意見を拝聴できるのもありがたい。

懇親会があるのもうれしい限りである。他市の先生方との交流はこのようなクラブの存在なしでは考えられないだろう。

コンサートや展覧会は一つの目標

区切りになる。コンサートでギターの弾き語りをやるとなったら、それに向けての練習は半端ではない。展覧会も同じ、そこに向けて作品を創造していく。医業は日々勉強にいきしむのが常であるが、芸術活動はコンサートや展覧会があることでグッと力が増すと思われる。これを何度も経験することで自分なりの世界をつくっていけるのではないかと思っている。

(東京都医師会雑誌 通巻666号に掲載)

表紙の言葉

東京都板橋区 山田 治

『出 漁』

この作品は現在、私のクリニックの待合室に飾ってあります。観てくれる方の反応は「何処ですか？」が殆ど。そう聞かれる方の多くは故郷の風景ではないかとおっしゃいます。実際は伊豆の伊東港で、ある朝出会った情景。烏賊釣り船なのでしょう。沢山の集魚灯が並び甲板には初老の漁師さんがスックと立つ、その姿が印象的でした。多忙故に四十五年のブランク後、絵筆を取って五年。絵日記のような絵を描いています。観ていただけた方に、故郷を思い出していただけとしたら、描いた者として名誉であり最高に嬉しい事です。

(第六十三回 医家美術展出展作品)

医芸俳壇



静岡 岩 本 漂 人

青田波佐渡より来る能登のトキ
連絡船オオミズナギを引き連れて
台風過カルガモゆらりと濁流に
アオサギに蛙見る目でにらまれて
百日紅散ればコガモの渡り来る

兵庫 廣 辻 逸 郎

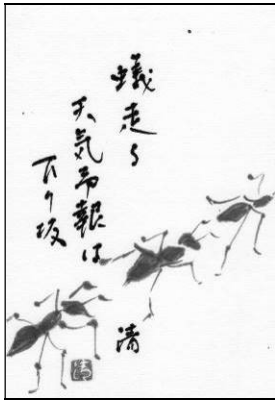
新樹光同じ高さよラクダの背
初乗りのラクダの揺れや初夏の風
手漕舟はや葭切に囲まるる
水打てば縄れ飛び立つ夏の蝶
黒蝶に育てよあおむし這うままに

東京 福 神 規 子

わが心われに遠しや蟬時雨
仏具屋が一軒増えて梅雨の町
蟻の道ジプシーといふ民ありて
誠実な畳屋夫婦立葵
旅の身の茅の輪潜るもえにしか

東京 福 富 清 子

ガスに浮く尾根踏み踏むや一步半歩
師の終の更衣きやうえこれ経衣かな
あの世あのよこの世間このよかんナノ耗おぼろかな
夏手袋ある日老師は洋装に
剥落のきわみ奪衣婆青葉蔭



医芸柳壇



群馬 豊 泉 清

夏痩せをしない体質つらい秋
柿たわわもぎ手のいない過疎の村
この夏はナマズの人気ウナギ昇り
秋来ぬとベルトの孔で知られけり
体重を減らせと指示するデブの医者

医芸歌壇



家猫小次郎

東京 横田 英夫

四本の足先白くつやつやとブーツ履けりと賞めしばかりに
腫瘍にて左前肢切断を如何に思うや人にあらねば

手術終え小次郎無事に歸り来る心に懸かる翳の晴れゆく
一散に階段登り降りられず逃げ足速き勢いいずこ

こわがりて遠出せざりし猫なれど組織切片のみアメリカのラボへ

アルタイル

東京 小松 安彦

出窓より眺めし松の並木をば今はベンチに座りて仰ぐ

アルタイル雲の絶え間に光りゐてベガが見えない七夕の夜

夏の夜に光る彗星一族と認められたる者に幸あれ

秋になり人の心も移るらむ立秋に聞くこほろぎの声

雲の無き九月の空にたまきはる我が子の手より飛行機よ飛べ

危ふき時世

東京 林 宏匡

「降」といふ字は天の神階段を使ひて地上に下りゆく態すがた
「しやれこうべ」変じて「白」といふ漢字成りしと知れるわが無能きよすかた

「羌」といふ字おどまし首切られ胴体示す態なりとは

「漢字」をば發明したる般の国 周に漢字も国も取られき
漢字より萬葉仮名を生み出せし大和言葉も危ふき時世

早春

茨城 羽生 藤伍

春浅き玄界灘の風うけて唐津城下に辛夷は揺れるこふし

老岐の島猿の形の大岩が海に聳ゆは砲台の跡そび

廃墟なす商店街の活性に金冠被つて稚児の行列ちご

人形で復活したる町ありき我街も祭で成功するか

北風の烈しく当る背中に立つ白梅香り咲き誇るなりせな

チャグチャグ馬コ

茨城 羽生 藤伍

盛粧のチャグチャグ馬コ百頭が盛岡市内群衆と行くうまうえ

馬上に男女の稚児も化粧して片手を高く観衆に振る

大阪のダンジリ祭に負けぬ程チャグチャグ祭観衆あつむ

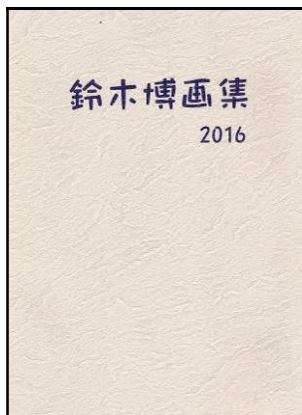
パレードは岩手山をば眺めつつ北上川を渡りて踊る

早乙女の代わりに父の耕耘機春風の中田植えを済ます

『鈴木博画集 2016』

鈴木 博 著

当クラブ美術部の鈴木博先生の画集



油絵・水彩・デッサン画と多彩な作品と鈴木博先生のコメントも掲載



中高校生の頃から美術部員やその作品を見るにつけその美しさや創造

性に感心し、羨ましかったものです。自分にその才能の無いことは解ってはいるが、それを試みる余裕もなかった。そこで還暦を前にした頃、遅まきながら、それに挑戦することになりました。もう二十数年間になりました。木曜日を休診日にして、池袋のカルチャーセンターの油絵乙丸教室に入門し通いました。(中略)

描く楽しみを覚え、傑作に憧れ、齢を忘れて取り組んでおります。なかなか向上しませんが、作品の数だけが確実に増えました。世辞であれ、稚拙な絵でも褒めてくれる人が一人でもあると満足感があり、これがまた止められません。再度の挑戦となります。

【まえがき より】

(前略)

鈴木博先生は、銀座で行われている絵画展に二十数年前から出品されています。毎年、懇親会にも出席さ

れ、温和で優しい人柄はいつも笑顔のすてきな紳士、穏やかな口調で話され皆さんに厚い信頼を得ています。懇親会では、プロの画家の先生に来て頂き寸評を賜り、会員同士でも品評しあい楽しい時間を共有しています。この品評会でも鈴木先生の作品は非常に好評を得ています。

また、先生は板橋区医師会絵画展の世話役もやっておられ、日々医師としての診察、お忙しい中素晴らしい作品を描かれています。

先生の作品を見る時、自分ではとてもこのようには描けない、どのように描いているのか。同じ筆を持つ者として興味深く感銘を受けております。(後略)

白矢 勝一

【画集刊行によせて より】

会員の著作を紹介する欄です。

近著を事務局まで送ってください

橋爪康子写真展

白矢 勝一

先日、六月二十八日から七月三日の会期日程にて当クラブ会員の橋爪康子氏の写真展が、橋爪さんが経営されているギャラリー「サロン ド フルール」にて開催されました。

すてきなギャラリーに魅力的な作品が飾られていました。今回の写真展のテーマが『Memory of Cruise Life』ということで、船や海、旅で出会った人々の写真が数多く飾られており、クルーズの楽しさが存分に味わえる素敵な写真展でした。

会場にはたくさんの方が入れ替わり来場されており、橋爪さんの交友の広さがうかがえました。

橋爪さんにクルーズの魅力を教えたという斉藤茂太先生にも会場でお

目にかかり、楽しいお話を聞かせていただきました。橋爪さんはすっかりクルーズの魅力の虜になっていらつしやるようで、毎年、内外のいろいろな船に乗船しているとのこと。橋爪さんや斉藤先生からクルーズの旅の素晴らしい話をお聞きしていると、私も乗ってみたいくなってワクワクしました。



ギャラリー『サロン ド フルール』



『クルーズでの斉藤先生の趣味は「橋持ち上げ」。カメラのアングルで、本当に橋を持ち上げているみたいになる。』とのこと。



斉藤茂太先生と橋爪康子氏

高岩震写真展

白矢 勝一

当クラブ写真部が毎年行っている『医家写真展』にて写真の寸評を前々回まで担当してくださっていた写真家の高岩震先生が、東京都小平市にあるシラヤアーツスペースにて写真展を開催されました。七月三日から九日まで開催され、会期中の七月四日には記念パーティーが催されました。

記念パーティーには数多くの方が来場され、高岩先生の人脈の広さうかがえました。小平市市長や高岩震先生の姪の檀ふみさんがお見えになつており、パーティーを華やかに盛り上げていました。会場ではバイオリンやチェロの演奏、ピアノや歌などのコンサートを堪能しながら、

軽食やワインなどで楽しい時間を過ごしました。

今回の写真展は、高岩先生が昨年から東京都文京区に移住され、その文京区を中心とした、昔ながらの生活が残る町並みや日常の何気ない情景を切り取った作品の数々が展示されていきました。また芝居小屋で行われた舞台の写真はともアートな作品で魅力的でした。併せて今までの海外で撮影された作品や昔懐かしい日本の様子などの写真も何点か飾られていて、とても素晴らしい作品の数々に心が奪われました。

高岩震先生の作品の中から数点とパーティーの様子を掲載させていただきます。







【お詫びと訂正】

医家芸術 春季号 通巻 627号

85 ページ「ほん」の紹介ページにて

『異臭の六日間』

『SF・科学ファンタジー句集』

の2冊の著者名を誤って掲載してしまいました。

天瀬先生、また関係者の方々に大変なご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。正しくは左記のとおりです。

【誤】 天野 裕康 著

【正】 天瀬 裕康 著

87 ページ「表紙の言葉」内

【誤】 第四十五回医家美術展出品

【正】 第四十五回医家写真展出品

秋・冬季合併号 原稿募集のお知らせ

次号（秋・冬季合併号）締め切り

平成 28 年 10 月 31 日（月）

毎号、会員のみなさまのご協力、誠にありがとうございます。

今号（夏季号）は発行が大幅に遅れてしまいましたことお詫び申し上げます。このままでは以後の発行に影響してしまうため、誠に勝手ながら、次号は秋季号と冬季号を合併させていただきます。年明けの新年号として発行させていただきます。

従って、右記の通りの締め切りとなります。ぜひこの機会にご投稿お待ちしております。

年内には、文芸特集号が発行予定です。購読をご希望の方は事務局まで FAX またはメールでお知らせください。

引き続き、会員の皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

※一部 500 円にて機関誌の追加購読も承っています。ご希望の方は事務局までお知らせください。

透視像



太田 怜

老人と病気

肝臓にほどほどの病気があり、心房ブロックで一級身障者であるが、辛い運動器に異常はなく、90歳半ばで日常生活は支障なく過ごしてきたのだが、今年になって突然異変がおきた。

ある日右尺骨神経マヒとなり右ⅢⅣⅤ指がしびれ、字も書けなくなったり箸を持つ手ももどかしくなった。頸椎の狭窄が原因で、治療は手術しかないが放といてもそのうち馴れますよと整形医から云われた。つまり年令を考えると、そのメリットは微々たるものだということなのであらう。

ところがそのうちに今度は右下肢が痛くなった。典型的な間欠性跛行でASOかもしれないが、立位でも病状があり腰痛もともなうのでやはり脊椎管狭窄によるものようであった。これも手術に関しては、積極的なすめは得られず「先生より年下の人でもそういう人はいっぱいいますよ」と整形医からなぐさめられた。歳をとったら病気になることが自然で、身体に異常のないことの方が不自然なのであらうか。

しかしこのようにロコモティブシンドロームとなり手も足も出なくなると生命力は著しく減退する。外出するのが億劫になり、好きな清元の声まで減入る始末である。石垣もくずれ天守閣だけが残っているさまは正しく大阪夏の陣だし、名月赤城山の名詞「意地の筋金度胸のよさもいつか落日の三度笠」の心境である。医者は患者の痛みが解らねばなら

ぬという。たしかに腰や膝の痛みを訴える患者の苦痛はよく理解できた。しかし自分が病気になるって気分が滅入っては、同病相あわれむことは出来ても相手を救うことはできない。水に溺れた人を同じように溺れた人が救うことはできない。水泳の達人が救うのである。とすると医者は患者の痛みを同感できなくとも、心身ともに健全であるべきとつくづく思った次第である。

編集後記



毎号、遅くなつてしまい申し訳ありません、とお詫びしている次第ですが、とうとう次号秋季号発行が難しくなつてしまい、次回は秋・冬季合併号とさせていただきます。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。よろしくお願ひいたします。

(ES)